令和４年度
シラバス

専攻科保育福祉専攻

令和4年度　専攻科　保育福祉専攻　履修表

領域	授業科目	開講単位数	必修単位数	選択単位数	介護福祉士必修	時間数		前期	後期	担当	備考 ★は実務経験のある教員が担当する科目	ポイント（単位×5）	DP	①介護福祉士として必要な専門知識・技術を修得している	②福祉や介護に関する知識・技能を活かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができる	③福祉や介護を取り巻く様々な問題に関心を持ち、ニーズに応え続けようと臨むことができる	④慈しみの心で人と接し、社会に貢献できる実践力を身につけている	科目ナンバリング
													CP	専攻科保育福祉専攻は、保育士資格を取得していることを受験資格とする1年課程の男女共学の介護福祉士養成施設である。修了認定の方針に掲げる目標を達成するために、幼児保育学科で学んだ知識を、専攻科で学ぶ人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、医療的ケアに繋げることにより保育・介護・福祉の学びをより質の高いものへと導く。また、社会人基礎力を身につけるための専攻科独自の科目を開講する。				
														① 介護福祉士として、対象者への尊厳や自立支援、生活支援に必要な専門知識・技能を修得するため「介護の基本」「生活支援技術」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」等の専門科目を配置する。	② 介護福祉士に関する知識・技能を統合した介護過程の展開および多職種連携やチームケアを理解し、個別ケアをはじめ生活の質の向上のため、状況を多面的に考察し対応できるよう「介護総合演習」等の介護実習に対応した科目を配置する。	③ 地域社会福祉の知識を学び、介護を取り巻く様々な問題や社会情勢に関心を持ち、人間としての感性や生き方について考える力を養う学習として、人間と社会の科目を配置する。また、高齢者や障がい者等を理解するため、「コミュニケーション技術」「認知症の理解」「障害の理解」等の専門科目を配置する。	④ 慈しみの心で人と接し、人とともに社会に貢献できる実践力と確かな就業能力を身につけるため、キャリア形成に関する科目を配置する。	
人間と社会	社会の理解	2	2		2	30		2		大川		10		4		3	3	S2022-1201-01
介護	介護の基本　Ⅰ	6	6		6	180	120	3	3	萬竹・村上		30		7	11	7	5	S2022-1202-02
	介護の基本　Ⅱ	3	3		3		60		3	折居 松尾・水上	生活の理解　1 住環境コーデ対策・インファントセラピー　2	15		15				S2022-1202-03
	コミュニケーション技術Ⅰ	1	1		1	60	30	1		角	★	5			3		2	S2022-1202-04
	コミュニケーション技術Ⅱ	1	1		1		30		1	井邑		5			3		2	S2022-1202-05
	生活支援技術　Ⅰ	4	4		4	300	120	2	2	角	★	20		12	8			S2022-1202-06
	生活支援技術　Ⅱ	2	2		2		60	2		甲斐 谷口（有浦）	ｾﾗﾋﾟｭｰﾃｨｯｸｹｱ1 手話1	10		6		2	2	S2022-1202-07
	生活支援技術　Ⅲ	2	2		2		60	2		重松（食B）	栄養 調理	10		6	2	2		S2022-1202-08
	生活支援技術　Ⅳ	2	2		2		60		2	原田 河村	福祉レクリエーション1 家政1	10		6	2	2		S2022-1202-09
	介護過程　Ⅰ	1	1		1	150	30	1		松尾		5			3	2		S2022-1202-10
	介護過程　Ⅱ	4	4		4		120	2	2	角	★　現場演習含	20		5	5	5	5	S2022-1202-11
	介護総合演習	2		2	2	60		1	1	角、緒方		10			7	3		S2022-1202-12
	介護実習　Ⅰ	5		5	5	216	56			角・緒方	7日間	25		3	8	7	7	S2022-1202-13
	介護実習　Ⅱ						160				20日間							
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	2	2		2	30		2		角		10		7	1	1	1	S2022-1203-14
	認知症の理解	4	4		4	60		2	2	萬竹・大川		20		6	2	10	2	S2022-1203-15
	障害の理解	2	2		2	30		2		大川		10		7		3		S2022-1203-16
	こころとからだのしくみ	4	4		4	60		2	2	緒方・折居	★	20		20				S2022-1203-17
医療的ケア	医療的ケア	4	4		4	60			4	緒方	★	20		20				S2022-1204-18
	キャリア形成ゼミⅢ	2	2			60		1	1	角・大川		10			3	4	3	S2022-1207-19
	保育原論	2	2			30			2	朝木		10			4	4	2	S2022-1206-20
合　計		55	48	7	51	1,326						275		124	62	55	34	

科　目	社会の理解	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　大川　絹代	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護実践に必要な知識として、日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。さらに個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活の場としての地域という観点から地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。地域共生社会の実現に向けた制度や施策について理解し、グループワーク、ディスカッションを通して、実践的・主体的に学ぶ。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	社会保障制度、高齢者福祉制度、障害者福祉制度の基本的な考え方と仕組みを理解することができる。	DP1、3	定期試験及びレポートで６割以上解答できる。
2.	人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的考え方としくみを理解することができる。	DP1.3.4	講義中の質問への解答、グループワーク、レポートで考え方をまとめ解答することができる。
3.	地域共生社会の実現に向けた制度や背策の事例を通して、どのような制度を利用することができるかグループワーク等を通して理解できる。	DP1.4	講義中の発表、ディスカッション、レポートで考え方をまとめ解答することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 社会と生活のしくみ（生活の基本機能、ライフスタイルの変化）	教科書１章１．２．３熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
2.	社会と生活のしくみ（社会・組織の機能と役割、地域社会における生活支援）	教科書１章４．５．６．７熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
3.	地域福祉の発展	教科書２章１熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
4.	地域共生社会	教科書２章２熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
5.	地域包括ケア	教科書２章３熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
6.	社会保障制度（社会保障制度の基本的考え方と歴史的展開）	教科書３章１．２熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
7.	社会保障制度（社会保障制度のしくみ）	教科書３章３熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
8.	社会保障制度（現代社会と社会保障制度）	教科書３章４熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
9.	高齢者保健福祉と介護保険制度（高齢者保健福祉の動向）	教科書４章１熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
10.	高齢者保健福祉と介護保険制度（高齢者保健福祉に関する法体系）	教科書４章２熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
11.	高齢者保健福祉と介護保険制度（介護保険制度）	教科書４章３熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
12.	障害者保健福祉と障害者総合支援制度（障害者保健福祉の歴史的展開と関連する法体系）	教科書５章１．２熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
13.	障害者保健福祉と障害者総合支援制度（障害者総合支援法）	教科書５章３熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
14.	介護実践に関連する諸制度（個人の権利を守る制度・施策）	教科書６章１．２熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
15.	介護実践に関連する諸制度（保健医療に関する制度・施策）	教科書６章３．４熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　2「社会の理解」中央法規
参考書	適時、授業内で提示
学習成果の評価方法	試験60%、レポート30%、授業参加度（取組、発表）10%。レポートは解説を加えフィードバックします。
特記すべき事　　項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。 遅刻した際は、授業終了時に担当教員に申し出ること。申し出がない場合は欠席となります。
質問・相談等の受付	質問、相談があるときはオフィスアワー（火曜日16時～１７時）に研究室にて受け付けます。

科　目	介護の基本Ⅰ(前期)	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　萬竹　恵美	授業形態 単位数	講義+演習 3単位
授業概要	1,介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 2,「尊厳の保持」「自立支援」について理解し、「介護を必要とする人」を生活の視点でとらえ、安全性やチームケアについてその役割と機能を理解する。その上で、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、個別介護を習得する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	DP1	定期試験およびレポートで6割以上解答できる。
2.	要介護者の尊厳と自立支援の基本的な知識や技術を理解する。	DP2,3	講義中の質問への解答、レポートで考えをまとめ解答することができる。
3.	介護福祉・社会福祉の観点から、福祉制度や人権擁護について理解する。	DP4	講義中の発表、レポートで考えをまとめ解答することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 第1章：介護福祉の基本となる理念 1、介護の意味と成り立ち	テキスト見開き～P5を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
2.	2、介護福祉を取り巻く状況	テキストP5～P19を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
3.	3-1、介護福祉の歴史(老人福祉法制定前～1970年代)	テキストP21～P31を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
4.	3-2、介護福祉の歴史（1980年代～2000年以降）	テキストP32～P52を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
5.	3-3、介護福祉の歴史（1980年代～2000年以降） 演習1-2	テキストP32～P52を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
6.	4-1、介護福祉の理念(ノーマライゼーション)	テキストP53～P65を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
7.	4-2、介護福祉の理念(尊厳と自立＝自己決定) 演習1-3	テキストP53～P65を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
8.	第2章：介護福祉士の役割と機能 1、社会福祉士及び介護福祉士法 2、地域包括ケアシステム	テキストP68～P76,P77～P80を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
9.	3、介護予防 4、医療的ケア	テキストP80～P85を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
10.	5、看取り 6、災害時	テキストP85～P92を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
11.	7、役割と養成	テキストP94～P106を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
12.	8、支援団体	テキストP106～P115を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
13.	1～12回のミニテスト・過去問（またはレポート）	1～12回までの復習（2時間）	解答できなかった点をノートにまとめる（2時間）
14.	13回のフィードバック 前半のまとめ	1～12回までの復習（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
15.	第3章：介護福祉の倫理 1、実践における倫理	テキストP118～P129を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座 3　「介護の基本Ⅰ」・4「介護の基本Ⅱ」中央法規
参考書	授業中に適宜紹介および配布します。
学習成果の評価方法	定期試験（70%）、ミニテストまたはレポート及びプレゼンテーション（20%）、授業態度等（10%）で総合的に評価します。 ミニテスト及びレポートは添削後返却します。
特記すべき事　項	授業中の私語は厳禁とします。遅刻、早退、欠席は必ず本人が連絡すること。
質問・相談等の受付	授業中にその都度対応します。（内容により即答または次回持ち越し）

科　目	介護の基本Ⅰ(前期)	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　萬竹　恵美	授業形態 単位数	講義+演習 3単位
授業概要	1,介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 2,「尊厳の保持」「自立支援」について理解し、「介護を必要とする人」を生活の視点でとらえ、安全性やチームケアについてその役割と機能を理解する。その上で、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、個別介護を習得する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	DP1	定期試験およびレポートで6割以上解答できる。
2.	要介護者の尊厳と自立支援の基本的な知識や技術を理解する。	DP2,3	講義中の質問への解答、レポートで考えをまとめ解答することができる。
3.	介護福祉・社会福祉の観点から、福祉制度や人権擁護について理解する。	DP4	講義中の発表、レポートで考えをまとめ解答することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	2-1、倫理対応が必要な事例	テキストP130～P135を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
17.	2-2、倫理対応が必要な事例	テキストP130～P135を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
18.	3、介護福祉士に求められる職業倫理（日本介護福祉介倫理綱領）	テキストP136～P148を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
19.	4、自立支援とは	テキストP152～P163を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
20.	5、就労支援・自立と生活支援 演習4-1	テキストP163～P171を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
21.	6、ICFとは 演習4-2	テキストP172～P179を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
22.	7-1、自立支援とリハビリテーション	テキストP180～P197を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
23.	7-2、自立支援とリハビリテーション（介護福祉士の役割） 演習4-3	テキストP180～P197を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
24.	8-1、自立支援と介護予防 演習4-5	テキストP198～P215を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
25.	8-2、介護予防プログラム企画	企画概要を理解し情報収集を行う（1時間）	プレゼンテーションの練習（1時間）
26.	8-3、介護予防プログラム企画　※企画書提出	企画概要を理解し情報収集を行う（1時間）	プレゼンテーションの練習（1時間）
27.	8-4、介護予防プログラムプレゼンテーション	プレゼンテーションの練習（1時間）	自己・他己評価をまとめる（1時間）
28.	8-5、介護予防プログラムの事例紹介	介護予防プログラムの情報収集を行う（1時間）	講義で学んだ内容や疑問をノートにまとめる（2時間）
29.	15～24回までのミニテスト（またはレポート）	15～24回までの復習（2時間）	解答できなかった点をノートにまとめる（2時間）
30.	総まとめ（ミニテスト・レポート・過去問フィードバック）	本授業を振り返り質問・疑問点を挙げておく（2時間）	本授業を振り返り定期試験に備える（2時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」・4「介護の基本Ⅱ」中央法規
参考書	授業中に適宜紹介および配布します。
学習成果の評価方法	定期試験（70%）、ミニテストまたはレポート及びプレゼンテーション（20%）、授業態度等（10%）で総合的に評価します。 ミニテスト及びレポートは添削後返却します。
特記すべき事　項	授業中の私語は厳禁とします。遅刻、早退、欠席は必ず本人が連絡すること。
質問・相談等の受付	授業中にその都度対応します。（内容により即答または次回持ち越し）

科　目	介護の基本Ⅰ(後期)	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　村上　有希	授業形態 単位数	講義+演習 3単位
授業概要	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から取れえるための学習。介護における安全やチームケアについて理解する。介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みの理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	DP2,3	介護福祉士として必要なコミュニケーション能力・観察力等のアセスメント能力を身につけ、介護福祉の専門性と倫理を理解できている。
2.	要介護者の尊厳と自立(自律)支援するための介護の基本的な知識や技術を習得する。	DP1,2	自己覚知を行うことで自己理解を振り返る。要介護者とその家族の背景を理解し、チームの連携や地域包括ケアシステムを学ぶ。
3.	介護福祉・社会福祉の観点から、福祉制度や人権擁護の意義を学ぶ。	DP2,4	社会福祉士及び介護福祉士法、介護保険制度、障害者自立支援法等を中心に、職業倫理や社会福祉制度が理解できている。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（学習成果と評価について） 介護福祉における自立支援の意義ー１「ＩＣＦの考え方と自立支援」	ＩＣＦの基本を予習　（1時間）	介護実習での担当利用者をＩＣＦの視点で再構築する（1時間）
2.	介護福祉における自立支援の意義－２「要介護者理解の視点(エンパワメント、ストレングス）」	介護実習での担当利用者について振り返る（1時間）	個別的なＩＣＦのあり方について復習する（1時間）
3.	介護福祉における自立支援の意義－３　「自己決定支援」	介護実習での担当利用者自己決定について予習（1時間）	自己決定支援の方法について復習する（1時間）
4.	生活意欲と活動　「レクリエーションとアクティビティの理解」	アクティビティについて予習（1時間）	生活意欲が持てる介護について復習する（1時間）
5.	介護予防の意義とリハビリテーションの理念	「介護の基本Ⅱ」テキスト介護予防を予習（1時間）	介護予防の具体的支援方法をまとめる（1時間）
6.	リハビリテーションと介護福祉ー１「ADLとIADIの理解、日常生活としてのリハビリテーション」	「介護の基本Ⅱ」テキスト日常生活とリハビリテーションを予習（1時間）	ＩＡＤＬを理解できるようにまとめる（1時間）
7.	リハビリテーションと介護福祉ー２「介護予防の意義とリハビリテーションの理念」	「介護の基本Ⅱ」テキスト社会生活能力の維持・拡大を予習（1時間）	生活リハビリテーションをまとめる（1時間）
8.	就労支援　「就労支援と介護福祉」	「介護の基本Ⅱ」テキスト高齢者・障害者の就労について予習（1時間）	就労支援サービスをまとめる（1時間）
9.	自立支援と生活支援ー１「家族、地域と個の関り、自立と地域社会」	「介護の基本Ⅱ」テキスト在宅生活について予習（1時間）	在宅生活の必要性をまとめる（1時間）
10.	自立支援と生活支援ー２「生活環境の整備」	「介護の基本Ⅱ」テキスト自宅周辺の環境について予習（1時間）	高齢者や障害者が地域で生活する方法をまとめる（1時間）
11.	自立支援と生活支援ー３　「バリアフリーとユニバーサルデザイン」	「介護の基本Ⅱ」テキスト社会福祉制度からの生活支援について予習（1時間）	ユニバーサルデザインについてまとめる（1時間）
12.	自立支援と生活支援ー４　「福祉のまちづくりの意義」	「介護の基本Ⅱ」テキスト福祉の町作りについて予習（1時間	地域包括ケアシステムの関連事業をまとめる（1時間）
13.	生活の個別性と多様性－１　「生活の個別性と多様性の理解」	「介護の基本Ⅱ」テキスト生活の個別性について予習（1時間）	様々な環境の中での生活のあり方をまとめる（1時間）
14.	生活の個別性と多様性－２　「生活の個別性と多様性の理解」	「介護の基本Ⅱ」テキスト障害や疾病のある人の生活について予習（1時間）	障害や疾病のある人々の生活支援をまとめる（1時間）
15.	生活の個別性と多様性－３　「生活の個別性と多様性の理解」	「介護の基本Ⅱ」テキスト生活の個別性と多様性について予習（1時間）	個人を尊重しながら地域で生活することの意義をまとめる（1時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　3「介護の基本Ⅰ」・4「介護の基本Ⅱ」中央法規
参考書	授業中に説明及び資料配布
学習成果の評価方法	小テスト（80%）、レポート作成及び発表（15%）、授業態度（5%） レポートは添削後返却します。
特記すべき事　項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由を申し出ること。
質問・相談等の受付	授業中または授業前後の時間に受け付けます。

科　目	介護の基本Ⅰ(後期)	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　村上　有希	授業形態 単位数	講義+演習 3単位
授業概要	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から取れえるための学習。介護における安全やチームケアについて理解する。介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みの理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	ＤＰ２、３	介護福祉士として必要なコミュニケーション能力・観察力等のアセスメント能力を身につけ、介護福祉の専門性と倫理を理解できている。
2.	要介護者の尊厳と自立(自律)支援するための介護の基本的な知識や技術を習得する。	ＤＰ１、２	自己覚知を行うことで自己理解を振り返る。要介護者とその家族の背景を理解し、チームの連携や地域包括ケアシステムを学ぶ。
3.	介護福祉・社会福祉の観点から、福祉制度や人権擁護の意義を学ぶ。	ＤＰ２、４	社会福祉士及び介護福祉士法、介護保険制度、障害者自立支援法等を中心に、職業倫理や社会福祉制度が理解できている。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
16.	介護を必要とする人の理解ー１ 「生活の個別性と多様性」	「介護の基本Ⅰ」テキストその人らしさについて予習（1時間）	前回学んだ内容を含め生活の個別性と多様性をまとめる（1時間）
17.	介護を必要とする人の理解ー２ 「高齢者の生活」	介護が必要な障害者（児）高齢者の理解を予習（1時間）	高齢者の生活の場をまとめる（1時間）
18.	介護を必要とする人の理解ー３ 「障害者(児)の生活」	「介護の基本Ⅰ」テキスト障害者（児）の生活の理解について予習（1時間）	障害者（児）の生活の場をまとめる（1時間）
19.	介護を必要とする人の理解ー４ 「家族介護者の理解と支援」	「介護の基本Ⅰ」テキスト生活環境の重要性について予習（1時間）	家族介護の現状をまとめる（1時間）
20.	介護を必要とする人の生活を支える仕組みー１「介護を必要とする人が暮らす地域の理解と連携の意義」	「介護の基本Ⅰ」テキスト介護が必要な人々の地域の理解について予習（1時間）	地域包括ケアシステムについてまとめる（1時間）
21.	介護を必要とする人の生活を支える仕組みー2 「介護を必要とする人へのフォーマルな支援」	「介護の基本Ⅰ」テキスト介護が必要な人の理解を予習（1時間）	フォーマルな支援についてまとめる（1時間）
22.	介護を必要とする人の生活を支える仕組みー３ 「介護を必要とする人へのインフォーマルな支援」	「介護の基本Ⅰ」テキスト介護を必要とする人の理解を予習（1時間）	介護福祉のフォーマル・インフォーマルを復習する（1時間）
23.	多職種との連携ー１ 「多職種の役割と専門性の役割」	「介護の基本Ⅱ」テキスト多職種連携を予習（1時間）	多職種についてまとめる（1時間）
24.	多職種との連携ー２ 「多職種連携の意義と課題」	「介護の基本Ⅱ」テキスト多職種と介護の連携について予習（1時間）	介護と多職種連携連携の意義についてまとめる（1時間）
25.	介護における安全の確保とリスクマネジメントー１ 「介護のおける安全の確保」	「介護の基本Ⅱ」テキスト介護における安全の確保を予習（1時間）	介護上の安全の確保についてまとめる（1時間）
26.	介護における安全の確保とリスクマネジメントー２ 「事故防止、安全対策」	「介護の基本Ⅱ」テキスト安全確保のリスクマネジメントの予防を予習（1時間）	介護事故をまとめる（1時間）
27.	介護における安全の確保とリスクマネジメントー３ 「感染対策」	「介護の基本Ⅱ」テキスト介護に携わる人の健康管理を予習（1時間）	労働基準法と労働安全基準法をまとめる（1時間）
28.	介護従事者の安全ー１ 「労働基準法と労働安全基準法」	「介護の基本Ⅱ」テキスト介護に携わる人の健康管理を予習（1時間）	介護従事者の安全を守る方法をまとめる（1時間）
29.	介護従事者の安全ー２ 「労働安全と環境整備、労働者災害」	「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」テキストテキストを読み返す（1時間）	介護の基本で学んだ内容をまとめる（1時間）
30.	介護従事者の安全ー３ 「介護従事者の心身の健康管理」	介護従事者の心身のリスクを調べる（1時間）	介護の基本で学んだ内容を振り返る（1時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　3「介護の基本Ⅰ」・4「介護の基本Ⅱ」中央法規
参考書	授業中に説明及び資料配布
学習成果の評価方法	小テスト（80%）、レポート作成及び発表（15%）、授業態度（5%） レポートは添削後返却します。
特記すべき事　項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由を申し出ること。
質問・相談等の受付	授業中または授業前後の時間に受け付けます。

科　目	介護の基本Ⅱ（生活の理解）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　折居　明日香	授業形態 単位数	講義+演習 1単位
授業概要	自立支援の観点から、基本的な介護の知識・技術を養う。多職種協働やケアマネジメント、制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる力をつけ、リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践について学ぶ。 さらに、尊厳の確保、自立支援について理解し、介護における安全やチームケア等について理解する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護の概念や定義、時代背景から考える介護問題を理解し、尊厳を支える介護福祉の観点を理解できる。	DP1	定期試験及びレポートで６割以上解答できる。
2.	介護を必要とする人が望む生活を送るため、自立の概念、権利擁護について考えることができる。	DP1	講義中の質問への解答、レポートで考えをまとめ解答することができる。
3.	介護福祉士に求められる役割、価値、機能を理解し、介護現場や地域で実践されている介護福祉を理解できる。	DP1	講義中の発表、レポートで考えをまとめ解答することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 介護福祉を必要とする人の理解	教科書１章熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
2.	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）	教科書２章１熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
3.	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）	教科書２章２熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
4.	地域連携	教科書２章３熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
5.	介護における安全の確保	教科書３章１熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
6.	リスクマネジメント	教科書３章２熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
7.	感染症対策	教科書３章３熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
8.	多職種連携・協働の機能	教科書４章１熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
9.	多職種連携・協働の専門職について	教科書４章２熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
10.	保健・医療・福祉職の役割と機能	教科書４章３熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
11.	多職種連携・協働の実際	教科書４章４熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
12.	健康管理の意義と目的	教科書５章１熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
13.	こころの健康管理	教科書５章２熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
14.	身体の健康管理	教科書５章３熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
15.	労働環境の整備	教科書５章４熟読（１時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　4「介護の基本Ⅱ」中央法規
参考書	適宜配布
学習成果の評価方法	試験（70%）、レポート・小テスト（20%）、授業への参加度（10%）。小テストは授業内で解説を行い、レポートは添削後返却します。
特記すべき事　　項	遅刻した際は、授業終了時に担当者に申し出ること。申し出がない場合は欠席となります。早退、欠席も必ず本人が担当者へ直接、理由等を申し出ること。提出物の期限は厳守して下さい。
質問･相談等の受付	質問、相談があるときは、授業終了後の教室または授業の前後に非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	介護の基本Ⅱ（住・インファント）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　松尾　理沙・講師　水上　尚子	授業形態 単位数	講義+演習 2単位
授業概要	・住宅改修に関する制度や疾患・障害別特性を学び、住宅改修の基本的知識を習得する。福祉住環境コーディネーター受験のための勉強を通して、介護保険制度・障害者総合支援法を学習し、高齢者・障害者の身体的・精神的の状況を把握と住宅改修の基礎的な知識を理解する。 ・インファントセラピーとしてワークショップ開催できるように、ネック＆ショルダー（ファミリーバージョン）・腰のケア・インファントセラピーの相モデルを入れて実施できるようになる。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	住宅改修に関する制度と疾患・障害別特性、住宅改修の基本的知識を習得する。	DP1	住宅改修に関する基本的知識を理解することができ、小テストにおいて6割以上回答できる。
2.	福祉住環境コーディネーター2級の全員合格をめざす。	DP1	福祉住環境コーディネーター2級レベルの実力を身に付ける。
3.	インファントセラピストとして現場でいかすことができる。	DP1	筆記・実技認定試験に合格できる。 学外実習にて実践できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法・評価基準） 福祉住環境整備の役割　高齢社会への基礎知識 授業の目的・課題の設定　　（担当:松尾）	教科書の基礎知識について目を通しておく（2時間）	講義で学んだ内容を復習しておく（2時間）
2.	住宅改修基礎知識① （担当:松尾）	教科書の基礎知識について目を通しておく（2時間）	講義で学んだ内容を復習しておく（2時間）
3.	住宅改修基礎知識② （担当:松尾）	教科書の基礎知識について目を通しておく（2時間）	講義で学んだ内容を復習しておく（2時間）
4.	住宅改修基礎知識③ （担当:松尾）	教科書の基礎知識について目を通しておく（2時間）	講義で学んだ内容を復習しておく（2時間）
5.	高齢者・障害者の状況把握と福祉施策、福祉・保険サービス （担当:松尾）	福祉施設・介護保険サービスについて調べる（2時間）	講義で学んだ内容を復習しておく（2時間）
6.	高齢者・障害者の住宅施策 （担当:松尾）	福祉施設・介護保険サービスについて調べる（2時間）	講義で学んだ内容を復習しておく（2時間）
7.	住宅改修基本技術・環境整備の方法と実際	高齢・障害の状況においての環境整備方法を調べる（2時間）	講義で学んだ内容を復習しておく（2時間）
8.	福祉住環境コーディネーター2級の過去3年分の試験から出題+解説　（担当：松尾）	試験問題の傾向と対策について探求しておく（2時間）	試験の出題傾向を復習しておく（2時間）
9.	福祉住環境コーディネーター2級の過去4年分の試験から出題+解説　（担当：松尾）	試験問題の傾向と対策について探求しておく（2時間）	試験の出題傾向を復習しておく（2時間）
10.	福祉住環境コーディネーター2級の過去5年分の試験から出題+解説　（担当：松尾）	試験問題の傾向と対策について探求しておく（2時間）	試験の出題傾向を復習しておく（2時間）
11.	学習成果について（評価方法、評価基準） インファントセラピー概論、実技：インファントセラピー (担当：水上)	テキストの講義内容を読んでおく（2時間）	学んだ知識･技術を反復伝習する(2時間)
12.	子どもの人権と母子保護 実技：インファントセラピー、ネック&ショルダーケア (担当：水上)	テキストの講義内容を読んでおく（2時間）	学んだ知識･技術を反復伝習する(2時間)
13.	呼吸法、日本古来のベビーマッサージ、学外実習について 実技：インファントセラピー、腰のケア (担当：水上)	テキストの講義内容を読んでおく（2時間）	学んだ知識･技術を反復伝習する(2時間)
14.	実技認定テスト (担当：水上)	実技試験対策(2時間)	テスト内容を振り返る(2時間)
15.	学外実習 (担当：水上)	実技試験対策(2時間)	実習振り返り(2時間)

教科書	まるごと覚える福祉住環境コーディネーター2・3級ポイントレッスン　新星出版社 「インファントセラピスト＜改定版＞」
参考書	福祉住環境コーディネーター検定試験2級過去問題集　ハウジングエージェンシー
学習成果の評価方法	＜住環境コーディネーター＞筆記試験（60%）、授業態度（40%） ＜インファントセラピー＞実技認定試験（40%）、筆記試験（30%）、学外実習（20%）、レポート（5%）、授業態度（5%）レポートは添削
特記すべき事　　項	（松尾）高齢者・障害者を取り巻く社会状況の把握、住環境整備の方法（疾患・障害別）について十分理解する（1～10） （水上）施術実技にあたっては、爪や髪、服装に気を配ること。（11～15回）
質問･相談等の受付	(松尾）授業中または授業終了後に受付します。授業時間外は非常勤講師室で受付します。 (水上）授業前後に非常勤講師室で受け付けます。

科　目	コミュニケーション技術Ⅰ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	介護福祉士として、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。 授業では介護実践に必要なコミュニケーションの知識や技術を学び、理解を深め適切に活用できるよう演習やグループワークを通して実践的な力を培う。 ※この授業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護・通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護を必要とする人とのコミュニケーションの基本的知識や技法を理解することができる。	DP1	対象者となる人の状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するコミュニケーション技術を習得する。
2.	対象者の障害の特性やその家族とのコミュニケーション技術を身につけることができる。	DP2,3	様々な障害に応じた基本的なコミュニケーション技術を学ぶ。 対象者の家族の状況を理解し、家族への支援やパートナーシップの構築方法を学ぶ。
3.	介護におけるチームケア（多職種との連携）としてのコミュニケーションを身につける実践的な課題から、理解を深めることができる。	DP4	授業内の実践的演習やグループワークへの積極的な参加や工夫を通した体験的理解をレポートとしてまとめることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 授業の目標や学習成果について「意義と目的」	シラバスと教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
2.	対象者とのコミュニケーションー１ 「支援の対象と援助関係の特徴」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
3.	対象者とのコミュニケーションー２ 「傾聴・共感・受容の技術」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
4.	コミュニケーションの基本的技術ー１ 「言語コミュニケーション・非言語的コミュニケーション」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
5.	コミュニケーションの基本的技術ー２ 「目的別のコミュニケーション技術」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
6.	コミュニケーションの基本的技術ー３ 「集団におけるコミュニケーション技術」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
7.	コミュニケーションの基本的技術ー４ 「言語コミュニケーション・非言語的コミュニケーション」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
8.	障害の特性に応じたコミュニケーションー１	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
9.	障害の特性に応じたコミュニケーションー２	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
10.	介護における家族とのコミュニケーションー１ 「家族との関係作り」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
11.	介護における家族とのコミュニケーションー２ 「家族との関係作り、家族への助言・指導」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
12.	介護におけるチームのコミュニケーション-1 「報告・連絡・相談の技術」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
13.	介護におけるチームのコミュニケーション-２ 「介護記録に必要なコミュニケーション技術」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
14.	介護におけるチームのコミュニケーション-３ 「カンファレンスなどの会議や説明の技術」	授業内容を教科書で予習する（30分）	授業内容を整理しまとめる（30分）
15.	まとめ　「対象者との信頼関係を構築できるコミュニケーション技術」	全体の学びを教科書で予習する（30分）	全体の学びを整理しまとめる（30分）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　5「コミュニケーション技術」中央法規
参考書	介護職のための言葉のかけ方・話の聞き方　成美堂出版
学習成果の評価方法	筆記試験（７０%）、演習課題およびレポート（２０%）、授業態度（１０%） 演習課題およびレポートは、添削後返却する。
特記すべき事　　項	積極的にグループワークに参加する。 遅刻、早退、欠席は必ず本人が連絡すること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）にお出でください。

科　目	コミュニケーション技術Ⅱ	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　井邑　智哉	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	多様な人々がともに暮らす現代社会においては、他者との対話を通して、各種問題を解決していくことが求められる。この授業では、主体的・能動的に他者と関わるコミュニケーション能力を身につける。 自分の意思、情報、感情を利用者や職員に伝えるためには、口頭や文章でのコミュニケーション能力が求められる。コミュニケーション能力が、介護の中心的な役割を担っていることを理解し、応用実践できる能力を培うことがこの授業の目的である。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、個別介護を習得する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	言語的・非言語的コミュニケーションの理解と介護技術との関係について理解できる。	DP2,4	レポートで、言語的・非言語的コミュニケーションの理論と介護技術との関係について適切に記述することができる。
2.	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するための技法を学ぶ。	DP2,4	授業の発表で、チームケアを実践するための技法を使うことができる。
3.	集団による問題解決の方法やリーダーシップ能力を発揮できる。	DP2,4	演習の中で、問題解決能力や人間関係能力を行使できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	コミュニケーション技術Ⅱの授業概要、授業形態、学習成果（評価方法、評価基準）について。	コミュニケーションに関する自分の関心を明確にしておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
2.	印象形成と社会的認知	印象形成の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
3.	コミュニケーションを妨げるもの①：羞恥感情	羞恥感情の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
4.	コミュニケーションを妨げるもの②：怒り	怒りに関する疑問をまとめておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
5.	コミュニケーションを妨げるもの③：認知の歪み	自分の認知にどのような歪みがあるかを調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
6.	よい聴き手になるために①：傾聴	傾聴の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
7.	よい聴き手になるために②：自我状態（エゴグラム）	自我（エゴ）とは何かを調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
8.	よい聴き手になるために③：防衛機制、劣等コンプレックス	防衛機制の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
9.	非言語的コミュニケーション	非言語的コミュニケーションにどのようなものがあるかを調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
10.	よい話し手になるために①：質問スキル、敬語	敬語の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
11.	よい話し手になるために②：実践練習（ネーム・トス）	ネーム・トスの概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
12.	よい話し手になるために③：実践練習（トーク・フォークダンス）	トーク・フォークダンスの概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
13.	よい話し手になるために④：ネガティブな関係に巻き込まれないためのコツ	ネガティブな関係にはどのようなものがあるかを調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
14.	問題解決のためのコミュニケーション	問題を解決するための方法について調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
15.	ふりかえりとまとめ	これまでの演習で学んだ内容を整理しておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）

教科書	特にありません。適宜資料を配布します。
参考書	相川　充・高井次郎「コミュニケーションと対人関係」誠信書房
学習成果の評価方法	発表やグループ活動への参加度（30%）、レポート（60%）、受講態度（10%）による。 レポートは添削後返却します。
特記すべき事項	毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。
質問・相談等の受付	質問、相談等は授業中あるいは授業終了時に受け付けます。

科　目	生活支援技術Ⅰ(前期)	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	対象者への尊厳の保持や自立した日常生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を習得する。対象者への個別的生活支援技術を安全・安楽にできるように基礎的な知識と技術を学ぶ。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 ○この授業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護、通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護実践における対象者や介護者の安全・安楽を遵守するための基本的な知識や技術を習得する	DP1,2	生活支援技術の基本となる、日常生活動作（ADL）やボディメカニクスなどを理解する
2.	対象者が、その人らしい自立した日常生活ができるように理解する	DP1,2	対象者を客観的視点で観察できるようなコミュニケーション能力を身につける
3.	障害や疾病により介護が必要になっても、住み慣れた地域での在宅生活が可能になるような介護技術を習得する	DP1,2	AIを活用した福祉用具や自助具の提案、住宅改修など住環境コーディネートが理解できる

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（授業内容と学習成果について） 「生活支援技術を学ぶ意義」	シラバス、教科書に目を通す（30分）	日常生活動作（ADL）をまとめる（30分）
2.	日常生活動作（ADL）の基本動作の理解 ボディメカニクスの基本原則の理解	ボディメカニクスとは何かを予習する（30分）	ボディメカニクスの原理原則をまとめる（30分）
3.	コミュニケーション技術ー１ 「対人コミュニケーション技術」	対人コミュニケーションとは何かを予習する（30分）	対人コミュニケーション方法をまとめる（30分）
4.	コミュニケーション技術ー２ 「対象者とのコミュニケーション技術」	対象者とのコミュニケーション技術を予習する（30分）	対象者とのコミュニケーションの実践をまとめる（30分）
5.	ベッドメイキングー１「ベッドメイキングの意義と方法」	ベッドメイキングについて予習する（30分）	ベッドメイキングについてまとめる（30分）
6.	ベッド上での体位変換ー１	体位変換について予習する　（30分）	体位変換の実践についてまとめる（30分）
7.	ベッドメイキングー２ 「対象者が臥床時のベッドメイキングの方法」	対象者が臥床時のベッドメイキングについて予習する　（30分）	対象者が臥床時のベッドメイキングの実践ついてまとめる　（30分）
8.	ベッド上での体位変換ー２	体位変換について予習する　（30分）	体位変換についてまとめる　（30分
9.	車いすの理解、ベッド（臥床時）から車いすへの移乗	車いすについて予習する　（30分）	車いすについてまとめる　（30分）
10.	車いすからベッド（臥床時）への移乗	ベッド（臥床時）から車いすへの移乗について予習する　（30分）	ベッド（臥床時）から車いすへの移乗の実践についてまとめる（30分）
11.	衣服の着脱ー１「衣服の着脱の意義」	衣服の着脱の意義について予習する（30分）	衣服の着脱の意義についてまとめる（30分）
12.	衣服の着脱ー１「臥床時の和式寝巻の着脱」	臥床時の衣服の着脱について予習する（30分）	臥床時の衣服の着脱の実践についてまとめる（30分）
13.	衣服の着脱ー２「臥床時の上下寝巻の着脱」	臥床時の上下寝巻の着脱について予習する（30分）	臥床時の上下寝巻の着脱についてまとめる（30分）
14.	衣服の着脱ー２「臥床時の上下寝巻の着脱」	衣服の着脱の注意点について予習する（30分）	衣服の着脱の実践についてまとめる（30分）
15.	衣服の着脱ー３「椅子座位時の上下寝巻の着脱」	衣服の着脱の意義について予習する（30分）	衣服の着脱の実践についてまとめる（30分）

教科書	最新　介護福祉士養成講座編集委員会　６「生活支援技術Ⅰ」・７「生活支援技術Ⅱ」・８「生活支援技術Ⅲ」中央法規
参考書	介護技術の自己点検　創元社 介護のしくみ　講談社
学習成果の評価方法	筆記試験（５０％）、実技演習（４０％）、レポート（５％）、授業態度（５％） レポートは添削後返却する。
特記すべき事　項	生活支援技術のポイントを理解したうえで、身体介護技術演習に臨む。演習時は動きやすい服装や靴で整え髪もまとめる。 遅刻、早退、欠席は本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）にお出でください。

科　目	生活支援技術Ⅰ(前期)	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	対象者への尊厳の保持や自立した日常生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を習得する。対象者への個別的生活支援技術を安全・安楽にできるように基礎的な知識と技術を学ぶ。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 ○この授業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護、通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護実践における対象者や介護者の安全・安楽を遵守するための基本的な知識や技術を習得する	DP1,2	生活支援技術の基本となる、日常生活動作（ADL）やボディメカニクスなどを理解する
2.	対象者が、その人らしい自立した日常生活ができるように理解する	DP1,2	コミュニケーション能力(言葉遣い、声掛け、目線）客観的視点で傾聴、共感、受容を身につけている。
3.	障害や疾病により介護が必要になっても、住み慣れた地域での在宅生活が可能になるような介護技術を習得する	DP1,2	AIを活用した福祉用具や自助具の提案、住宅改修など住環境コーディネートが理解できる

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	衣服の着脱ー３「椅子座位時の上下寝巻の着脱」	衣服の着脱の注意点について予習する（30分）	衣服の着脱の注意点についてまとめる（30分）
17.	排泄の介護ー１　排泄のメカニズム「排尿と排便について」「ポータブルトイレ」	排泄についての予習をする　（30分）	排泄の正常・異常をまとめる（30分）
18.	排泄の介護ー２「ポータブルトイレ」	ポータブルトイレの介護方法を予習する（30分）	ポータブルトイレの介護方法についてまとめる（30分）
19.	排泄の介護ー３「おむつ交換」	臥床時のおむつ交換方法を予習する（30分）	おむつ交換方法を復習する　（30分）
20.	排泄の介護ー４「おむつ交換」	臥床時のおむつ交換方法を予習する（30分）	おむつ交換方法を復習する（30分）
21.	介護実習に必要な介護技術の知識と技術、実践例	生活支援技術の基礎を予習する（30分）	生活支援技術の基礎から応用への展開を振り返る（30分）
22.	実習直前介護技術評価	介護が必要な対象者について予習する（30分）	応用例をまとめる（30分）
23.	食事の介護ー１「食事の意義とメカニズム」	食事の意義とメカニズムについて予習する（30分））	食事の必要性をまとめる　（30分）
24.	食事の介護ー２「食事食体験・食事介助」「口腔ケア」」	食事の意義とメカニズムについて予習する（30分）	食事介助の実践をまとめる　（30分）
25.	清潔ー１　「清潔・入浴の意義」	清潔について予習する（30分	入浴体験や介護方法をまとめる（30分））
26.	清潔ー２　「入浴の介護」	入浴の意義について予習する（30分）	入浴体験や介護方法をまとめる（30分）
27.	基礎的な生活支援技術演習のまとめー１	生活支援技術の基礎を予習する（30分）	生活支援技術の基礎をまとめる（30分）
28.	基礎的な生活支援技術演習のまとめー２	生活支援技術の基礎を予習する（30分）	生活支援技術の基礎をまとめる（30分）
29.	介護実習を終えて－２　介護技術の応用例発表	生活支援技術の応用を予習する（30分）	生活支援技術の応用をまとめる（30分）
30.	生活支援技術実技評価	介護技術の基礎から応用方法を予習する（30分）	事例に応じた介護方法を振り返る（30分）

教科書	最新　介護福祉士養成講座編集委員会　６「生活支援技術Ⅰ」・７「生活支援技術Ⅱ」・８「生活支援技術Ⅲ」中央法規
参考書	介護技術の自己点検　創元社 介護のしくみ　講談社
学習成果の評価方法	筆記試験（５０％）、実技演習（４０％）、レポート作成（５％）、授業態度（５％）レポートは添削後返却する。
特記すべき事　項	生活支援技術のポイントを理解したうえで、身体介護技術演習に臨む。演習時は動きやすい服装や靴で整え髪もまとめる。 遅刻、早退、欠席は本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）にお出でください

科　目	生活支援技術Ⅰ(後期)	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	対象者への尊厳の保持や自立した日常生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を習得する。対象者への個別的生活支援技術を安全・安楽にできるように基礎的な知識と技術を学ぶ。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 ○この授業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護、通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護実践における対象者や介護者の安全・安楽を遵守するための基本的な知識や技術を習得する	DP1.2	日常生活支援技術の基本となる、日常生活動作（ADL）やボディメカニクスなどを理解する
2.	対象者が、その人らしい自立した日常生活ができるように理解する	DP1.2	対象者を客観的視点で観察できるようなコミュニケーション能力を身につける
3.	障害や疾病により介護が必要になっても、住み慣れた地域での在宅生活が可能になるような介護技術を習得する	DP1.2	AIを活用した福祉用具や自助具の提案、住宅改修など住環境コーディネートが理解できる

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション　授業内容と学習成果（評価基準と評価方法）について	シラバスで予習する（30分）	介護実習での個別的生活支援技術をまとめる（30分）
2.	介護実習―２を終えての生活支援技術の事例検討	介護実習Ⅱに関する実践内容をまとめる（30分）	介護実習での個別的生活支援技術をまとめる（30分）
3.	福祉用具及び自助具の活用法ー１　「障害に応じた自立支援」	福祉用具及び自助具について予習する（30分）	福祉用具及び自助具の活用方法についてまとめる（30分）
4.	福祉用具及び自助具の活用法ー２　「障害に応じた自立支援」	障害に応じた自立支援について予習する（30分）	障害に応じた自立支援についてまとめる（30分）
5.	福祉用具及び自助具の活用法ー３　「障害に応じた自立支援」	福祉用具及び自助具について予習する（30分）	福祉用具及び自助具の活用方法についてまとめる（30分）
6.	福祉用具及び自助具の活用法ー４　「障害に応じた自立支援」	障害に応じた自立支援について予習する（30分）	障害に応じた自立支援についてまとめる（30分）
7.	視覚障害者への介護ー１	視覚障害者への介護について予習する（30分）	視覚障害となる疾病についてまとめる（30分）
8.	視覚障害者への介護ー２	視覚障害者への介護について予習する（30分）	視覚障害者への介護方法についてまとめる（30分）
9.	住環境をコーディネートする「学内編」ー１ 「車椅子利用、視覚障害体験によるバリアフリー検証」	車椅子介護・視覚障害者について予習する（30分）	車椅子介護・視覚障害者介護の学内体験をまとめる（30分）
10.	住環境をコーディネートする「学内編」ー２ 「車椅子利用、視覚障害体験によるバリアフリー検証」	車椅子介護・視覚障害者について予習する（30分）	車椅子介護・視覚障害者介護の学内体験をまとめる（30分）
11.	住環境をコーディネートする「学内編」ー３ 「車椅子利用、視覚障害体験によるバリアフリーのあり方」	前回の学内での検証を振り返る（30分）	グループワークや発表についての気づきをまとめる（30分）
12.	住環境をコーディネートする「学内編」ー４ 「車椅子利用、視覚障害体験によるバリアフリーのあり方」	前回の学内での検証を振り返る（30分）	グループワークや発表についての気づきをまとめる（30分）
13.	住環境をコーディネートする「地域編」ー１ 「車椅子利用、視覚障害体験によるバリアフリー検証」	地域での車椅子利用・視覚障害者について予習する（30分）	車椅子介護・視覚障害者介護の地域体験をまとめる（30分）
14.	住環境をコーディネートする「地域編」ー２ 「車椅子利用、視覚障害体験によるバリアフリー検証」	地域での車椅子利用・視覚障害者について予習する（30分）	車椅子介護・視覚障害者介護の地域体験をまとめる（30分）
15.	住環境をコーディネートする「地域編」ー３ 「車椅子利用、視覚障害体験によるバリアフリー検証」	前回の地域での検証を振り返る（30分）	グループワークや発表についての気づきをまとめる（30分）

教科書	最新　介護福祉士養成講座編集委員会　６「生活支援技術Ⅰ」・７「生活支援技術Ⅱ」・８「生活支援技術Ⅲ」中央法規
参考書	介護のしくみ　講談社 介護技術の自己点検　創元社
学習成果の評価方法	筆記試験（５０％）、実技演習（４０％）、レポート作成（５％）、授業態度（５％）、レポートは添削後返却する。
特記すべき事　　項	生活支援技術のポイントを理解した上で演習を行う。演習時は動きやすい服装や靴、髪をまとめるように心掛ける。 遅刻、早退、欠席は本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）にお出でください。

科　目	生活支援技術Ⅰ(後期)	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	対象者への尊厳の保持や自立した日常生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を習得する。対象者への個別的生活支援技術を安全・安楽にできるように基礎的な知識と技術を学ぶ。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 ○この授業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護、通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護実践における対象者や介護者の安全・安楽を遵守するための基本的な知識や技術を習得する	DP１、2	日常生活支援技術の基本となる、日常生活動作（ADL）やボディメカニクスなどを理解する
2.	対象者が、その人らしい自立した日常生活ができるように理解する	DP１、2	対象者を客観的視点で観察できるようなコミュニケーション能力を身につける
3.	障害や疾病により介護が必要になっても、住み慣れた地域での在宅生活が可能になるような介護技術を習得する	DP１、2	AIを活用した福祉用具や自助具の提案、住宅改修など住環境コーディネートが理解できる

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	住環境をコーディネートする－２「地域編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）	障害者が介護者と屋外に出るポイントを予習する（30分）	地域で体験した内容を明確にする（30分）
17.	住環境をコーディネートする－２「地域編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）、グループワーク	前回の体験内容をまとめる（30分）	グループワークの内容を再構築する（30分）
18.	住環境をコーディネートする－２「地域編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）、発表	前回の体験内容をまとめる（30分）	グループワークの内容を再構築する（30分）
19.	ターミナルケアとグリーフケア　「利用者への対応」	ターミナルケアについて予習する（30分）	ターミナルケアのあり方をまとめる（30分）
20.	ターミナルケアとグリーフケア　「その家族への対応」	グリーフケアについて予習する（30分）	グリーフケアのポイントをまとめる（30分）
21.	薬物管理－１　　「薬物管理方法」	薬物管理方法について予習する（30分）	薬物管理方法についてまとめる（30分）
22.	薬物管理－２　　「疾病と薬物利用について」	疾病と薬物の関連について予習する（30分）	疾病と薬物についてまとめる（30分）
23.	災害時の介護－１　「様々な災害時の対応方法の理解」」	災害時の介護について予習する（30分）	在宅・施設での様々な災害時の介護ををまとめる（30分）
24.	災害時の介護－２　「在宅介護の対応」	災害時の介護について予習する（30分）	在宅での災害時の介護ををまとめる（30分）
25.	災害時の介護－３　「介護施設での介護」	災害時の介護について予習する（30分）	施設での災害時の介護ををまとめる（30分）
26.	災害時の介護－４　「避難所での介護」	避難場所の出の必要な介護をまとめる（30分）	避難所での災害時の介護ををまとめる（30分）
27.	介護技術まとめ－１	これまで学んだ介護技術をまとめる（30分）	不得意な介護技術を復習する（30分）
28.	介護技術まとめ－２	介護技術全般のポイントを予習する（30分）	これまで学んだ介護技術を振り返る（30分）
29.	介護技術実技評価	生活支援技術の基本と応用を予習する（30分）	事例の利用者へのより良い介護を理解する（30分）
30.	生活支援技術の総まとめ	生活支援技術の基本と応用を予習する（30分）	生活支援技術の学習のまとめ（30分）

教科書	最新　介護福祉士養成講座編集委員会　６「生活支援技術Ⅰ」・７「生活支援技術Ⅱ」・８「生活支援技術Ⅲ」中央法規
参考書	介護のしくみ　講談社 介護技術の自己点検　創元社　　授業中に説明及び資料配布
学習成果の評価方法	筆記試験（５０％）、実技演習（４０％）、レポート作成（５％）、授業態度（５％）、レポートは添削後返却する。
特記すべき事　　項	生活支援技術のポイントを理解した上で演習を行う。演習時は動きやすい服装や靴、髪をまとめるように心掛ける。 　遅刻、早退、欠席は本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）にお出でください。

科　目	生活支援技術Ⅱ（手話）	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　谷口　斉子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	聴覚障害のある人の生活上の困難を理解し、適切に介護するためには困難の原因となっている聴覚障害や言語障害を理解する必要がある。その上で、個別的な困難・不便などの課題や対応方法を学び、聴覚障害者とのコミュニケーション手段や手話による会話の実践を行う。日常で使用する挨拶や自己紹介が笑顔で楽しくできることを目的としている。 聴覚障害のある人への生活支援技術として、手話によるコミュニケーション技術を習得する。簡単な手話表現を理解し、手話や表情によりお互いの思いを伝え合う。また、相手を理解するために自ら手話表現を活用し、多用な場面での会話の実践を行う。手話による会話の楽しさや表現力の豊かさを学ぶ。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	聴覚障害者の日常生活での困難・不便などの課題や対応方法を理解できる。	DP1.3	日常生活での課題を理解し、その対応方法を身につける。
2.	簡単な手話表現を理解し、自ら手話表現ができる。	DP1	毎時間、積極的に授業に取り組み、手話で自己紹介ができるようになる。
3.	聴覚障害者とコミュニケーションをとることができる。	DP1.4	期末試験ならびに毎時の課題で6割以上解答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法・評価基準） 聴覚障害者の生活、コミュニケーションについて	シラバス、テキストに目を通しておく（30分）	学んだ内容をまとめる（30分）
2.	第1・2講座　伝え合ってみましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
3.	第3講座　自己紹介をしましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
4.	第4講座　家族を紹介しましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
5.	第5講座　数を使って話しましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
6.	第6講座　趣味について話しましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
7.	第7講座　仕事について話しましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
8.	第8講座　住所を紹介しましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
9.	第9講座　まとめ	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
10.	第10講座　1日のことを話しましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
11.	第11講座　１ケ月のことを話しましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
12.	第12講座　１年のことを話しましょう	DVDとテキストにある手話単語を見ておおく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
13.	ろうあ者と体験交流をしましょう	予告した内容を手話で表現できるよう練習する（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
14.	話してみましょう	予告した内容を手話で表現できるよう練習する（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30分）
15.	まとめとテスト	予告した内容を手話で表現できるよう練習する（30分）	講義全体をまとめ、定期試験に備える（30分）

教科書	「手話奉仕員養成テキスト　手話を学ぼう　手話で話そう」（財）全日本ろうあ連盟出版局
参考書	なし
学習成果の評価方法	試験（80%）、受講態度（20%）
特記すべき事　項	遅刻、早退、その他やむを得ず退室、入室する際は必ず申し出ること。
質問・相談等の受付	相談、質問がある時は、授業の前後に非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	生活支援技術Ⅱ(セラ)	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　甲斐　千香子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	福祉の現状を踏まえ、今後必要な生活支援技術のひとつとして、セラピューティック・ケアを習得し、介護のみならずQOLの向上を目指した支援にも役立たせることができるよう、その汎用性まで包括して学習する。 セラピューティック・ケアの沿革と基本理念に習熟し、セラピストとしてセラピューティック・ケアの施術ができる。また、セラピストとして接遇、傾聴等の知識があり対応できる。また、様々な福祉分野や現場において、セラピューティック・ケアを生活支援技術として活かす基礎を構築する。セラピューティック・ケア介護セラピストの資格取得をめざす。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	セラピューティック・ケアの基本技術とセラピストとしての基礎を習得している。	DP3	セラピューティック・ケアの基本技術およびセラピストとして傾聴・接遇等の周辺知識修得し、クライアントの個別的対応ができる。
2.	セラピューティック・ケアの知識と施術方法ができる。	DP1	筆記と実技試験にて評価する。
3.	セラピューティック・ケアの知識と技術を介護の現場でいかすことができる。	DP4	学外実習でクライアントに対して適切に個別対応ができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション(評価方法、評価基準について）、DVD視聴（Pv.ロクイチ）理論：概論　実技：ネック＆ショルダーケア(ビギナー)	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
2.	理論：DVD基本編視聴 実技：ネック＆ショルダーケア(フルバージョン)	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
3.	理論：統合医療としてのセラピューティック･ケア 実技：ハンド＆アームケア、ネック＆ショルダーケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
4.	理論：感染対策と施術上のテクニック、ハンド＆アームケア 実技：ハンド＆アームケア、ネック＆ショルダーケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
5.	理論：手あての効果、ネック＆ショルダーケア 実技：ネック＆ショルダーケア、ハンド＆アームケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
6.	理論：相乗効果、レッグケア 実技：レッグケア、ネック＆ショルダーケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
7.	理論：科学的根拠に基づいた立証実験 実技：ネック＆ショルダーケア、ハンド＆アームケア、レッグケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
8.	理論：ユニバーサルデザインとしてのセラ、傾聴と接遇 実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、レッグケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
9.	理論：セラピューティックケア事例ごとの対応(実習室) 実技：ネック＆ショルダーケア、ハンド＆アームケア、レッグケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
10.	理論：こころとからだを癒す認知症ケア、ターミナル期の方へのケア 実技：ポイントレッスン	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
11.	実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、レッグケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
12.	理論：ケア活動の心得、学外実習について 実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、レッグケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	学んだ知識･技術の反復練習しておく（30分）
13.	実技認定テスト、まとめ	テスト準備(30分)	テスト振り返り（30分）
14.	学外実習	学外実習準備(30分)	学外実習振り返り(30分)
15.	理論：セラピューティックケアでコミュニケーション、ツボ、協会の案内、認定証について 実技：腰のケア	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業全体を振り返る(30分)

教科書	「介護セラピストテキスト」日本セラピューティック・ケア協会認定テキスト
参考書	なし
学習成果の評価方法	実技認定テスト（40%）、筆記試験（30%）、学外実習（20%）、レポート（5%）、授業態度（5%） レポートは添削後返却します。
特記すべき事　　項	施術実技にあたっては、爪や髪(長い人は束ねる）、身だしなみに気を配ること。 遅刻、早退、欠席は必ず本人が連絡すること。
質問･相談等の受付	相談がある時は、授業の前後に非常勤講師室へ来て下さい。

科　目	生活支援技術Ⅲ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　重松　佳代	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	高齢者障害者の健康を維持する食生活の基本栄養、食品、調理に関して正しい知識と技術を実習を通じて習得する 基本の調理を習得後、日常食（和、洋、中）の嚥下、咀しゃく困難への対応、治療食への展開実習を行う また、介護者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識、技術を習得する		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	衛生面に気を配り、安全に実習を行える	DP2,3	時間配分を考えて実習を進め、準備から後片付けまでを衛生的に行える
2.	グループで協力して介護食の調理技術を習得する	DP3	実習の見通しをもって自分の仕事を把握し、グループで協働し、適切な調理方法で介護食を調理できる
3.	介護者の尊厳の保持、生活の豊かさを食の面から、本人主体の生活が継続できるよう、知識、技術を習得する	DP1	要介護者が喜ばれる献立を立案して調理を行える

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（介護食の必要性等）、実習を行うにあたっての注意点、学習成果について（評価方法、評価基準について）	シラバスを読んでおく（30分）	オリエンテーション内容を再確認しておく（30分）
2.	和食の実習（基本）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
3.	洋食の実習（基本）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
4.	中華の実習（基本）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
5.	日常食と介護食への展開①（ステージ１，２）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
6.	日常食と介護食への展開②（ステージ１，２）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
7.	日常食と介護食への展開③（ステージ１，２）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
8.	日常食と介護食への展開④（ステージ１，３）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
9.	日常食と介護食への展開⑤（ステージ１，３）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
10.	日常食と介護食への展開⑥（ステージ１，３）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
11.	日常食と治療食への展開①（ステージ１，４）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
12.	日常食と治療食への展開②（ステージ１，４）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
13.	日常食と治療食への展開③（ステージ１，４）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
14.	日常食と治療食への展開④（ステージ１，４）	予定された実習の手順等について確認しておく、身なりを整える（30分）	実習を通して気付いた点、反省等をまとめる（30分）
15.	嚥下、障がい食（製品）の試飲、試食、介護食のまとめ	これまでの授業内容、疑問点等をまとめておく（30分）	授業全体の振り返り（30分）

教科書	プリント配布
参考書	なし
学習成果の評価方法	実習態度、実技等（６０％）、授業内で行うレポート（４０％）
特記すべき事　　項	グループ学習（実習）となるため、お互いにコミュニケーションをとり、十分に協力し合い、学びを深めること また、調理実習を行うため、身なりを整えること
質問・相談等の受付	質問等があるときは授業の前後に行うこと

科　目	生活支援技術Ⅳ（福祉レク）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　原田　弘美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	レクリエーションは福祉支援を受ける対象者にとって、元気を回復し、生活に潤いを生み出すことを理解する。多様なレクリエーションを学ぶとともに、対象者の気持ちを受け止め、寄り添いながら対象者に合わせたレクリエーション支援ができる技術を取得する。多様なレクリエーションを体験し、様々な情報を得ることによってレクリエーションの本質的な楽しさを理解する。 また、演習やグループワークを通じて、対象者に合わせたアレンジ技術や目的に合わせた展開方法を学ぶ。発表の体験により集団をリードし、一体感を生み出し楽しい時間を演出する支援技術を取得する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	福祉レクリエーションの基本的考え方、基礎知識を習得することができる。	DP1	定期試験および授業中のミニテストにより学習成果の評価を行う。福祉レクリエーションに関する基礎知識について7割以上解答できる。
2.	対象者に合わせたレクリエーションの支援技術を取得する。	DP2	対象者に応じて適切な内容を計画し実施できる。
3.	良好なコミュニケーションを取るための技術を取得する。	DP3	グループワークおよび発表により学習成果の評価を行う。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション学習成果について（評価方法および評価基準）　福祉レクリエーションを学ぶにあたって	テキスト14P～19Pを読む（30分）	授業で学んだことを復習する
2.	レクリエーションの基本的理解 レクリエーション実技（アイスブレーキング①）	テキスト20P～24Pを読む（30分）	体験したことがあるレクリエーションを書きだす（30分）
3.	福祉レクリエーションとは レクリエーション実技（アイスブレーキング②）	テキスト81P～104Pを読む（30分）	体験したことがあるレクリエーションを書きだす（30分）
4.	福祉レクリエーション支援の理解Ⅰ レクリエーション実技（アイスブレーキング③）	テキスト109P～127Pを読む（30分）	QOLとは何かを調べる（30分）
5.	福祉レクリエーション支援の理解Ⅱ レクリエーション実技（コミュニケーション技法①）	テキスト25P～32Pを読む（30分）	ジョハリの窓を理解する（30分）
6.	福祉レクリエーション支援の理解Ⅲ レクリエーション実技（コミュニケーション技法②）	テキスト32P～37Pを読む（30分）	福祉レクリエーション支援を理解する（30分）
7.	楽しさ追求の支援の根拠１（APIEプロセス） レクリエーション実技（コミュニケーション技法③）	課題プリントを読む（30分）	APIEプロセスを理解する（30分）
8.	楽しさ追求の支援の根拠Ⅱ（総合的な支援の流れ） レクリエーション実技（お手玉）	109P～127Pを読む（30分）	アレンジを考える（30分）
9.	楽しさ追求の支援の根拠Ⅲ（行動変容と自己効感） レクリエーション実技（椅子に座っておこなう体操）	130P～166Pを読む（30分）	健康信念モデルについて調べる（30分）
10.	レクリエーション活動の実践（季節を楽しむクラフト）	必要な道具を準備する（ハサミ、ボンド、のりなど）	アレンジを考える（30分）
11.	レクリエーション活動の実践（季節を楽しむクラフト）	必要な道具を準備する（ハサミ、ボンド、のりなど）	アレンジを考える（30分）
12.	福祉レクリエーション支援Ⅰ レクリエーション活動実技（高齢者対象）	課題プリントを読むj（30分）	授業で学んだことを復習する
13.	福祉レクリエーション支援Ⅰ レクリエーション活動実技（障がい児・障がい者対象）	課題プリントを読む（30分）	授業で学んだことを復習する
14.	福祉レクリエーション支援Ⅰ レクリエーション活動実技（子ども対象）	課題プリントを読む（30分）	授業で学んだことを復習する
15.	まとめとテスト	テストに備える（３０分）	授業を振り返る（３０分）

教科書	「楽しいをつくる　レクリエーション・ハンドブック」（NPO法人）福岡県レクリエーション協会
参考書	適宜紹介します
学習成果の評価方法	期末試験（60%）、課題に対する提出物（20%）、授業への参加度（取組・発表）20% 課題レポートについては、評価・フィールドバックをした上で返却します。
特記すべき事　項	毎回の出席は事業開始時における応答、レポート提出により確認します。遅刻、早退、欠席は本人が直接理由を申し出ること。
質問・相談等の受付	質問、相談等があるときは授業終了後の教室またはj授業の前後に非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	生活支援技術Ⅳ（家政）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　河村　節子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	社会生活を維持するための日常生活の基礎知識を習得し、高齢者と障がい者の日常生活活動を把握し、適切に対応できる生活支援技術を養う。 介護福祉士に必要な日常生活の基礎知識を学び、実験、レポート等を通して高齢者と障がい者の生活支援技術を養う。 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、生活支援技術を習得する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・生活支援技術を習得する。	DP1,2	授業中の質問、ワークシートで生活支援技術について回答できる。
2.	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するための技法を学び生活支援技術ができる。	DP1,2	日常生活の基礎知識を習得し、実験等を通して生活に応用することができる。
3.	文章で適切な報告ができる。	DP3	丁寧で理解しやすい文章で作成されている。図も適切に工夫して描かれている。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法および評価基準）・食生活（栄養） 介護を必要とする人の食生活状況を理解する。	栄養とは何かについて調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
2.	食生活（食品）	食品について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
3.	食生活（栄養・調理実験）	栄養素について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
4.	食生活（食品の衛生と安全）	食品衛生について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
5.	食生活（食品の衛生と安全・食品衛生実験）	食品の安全性について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
6.	食生活（調理理論）	調理操作について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
7.	食生活（調理理論）	調理技術について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
8.	家庭生活の経営 介護を必要とする人の家庭生活状況を理解する。	家計について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
9.	衣生活（被服） 介護を必要とする人の衣生活状況を理解する。	衣類について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
10.	衣生活（洗濯）	洗濯表示について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
11.	住生活（安全・快適な住まい） 介護を必要とする人の住生活状況を理解する。	住居について調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
12.	住生活（安全・快適な住まい）	快適な住まいについて調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
13.	住生活（ユニバーサルデザイン・レイアウト）	ユニバーサルデザインについて調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
14.	住生活（レイアウト）	住居のレイアウトについて調べておくこと。（２時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（２時間）
15.	まとめ、授業評価アンケート	今までの講義で学んだ内容を復習しておくこと。（２時間）	授業全体を振り返る(2時間)

教科書	プリントを配布します。
参考書	授業中に紹介します。
学習成果の評価方法	レポート（30%）・課題提出（30%）ワークシート（30%）授業への参加度（10%） レポート・課題・ワークシートについては、評価・フィードバックをした上で返却します。
特記すべき事　項	毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。レポート・課題等は、提出期限を厳守してください。
質問・相談等の受付	質問・相談は授業終了後に受付ます。

科　目	介護過程Ⅰ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　松尾　理沙	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	介護の専門職として目的・根拠に基づいた科学的な介護支援を提供できるよう介護過程を展開していく能力を養う。実践的な演習を通して、対象者一人ひとりへ適切な支援ができるよう介護過程の展開を理解する。他の科目で学習した知識や技術を活かし、「個別ケア」を具体的に実現する方法を身に付けていく。 ※この授業は、介護福祉士として介護施設などで携わった経験を持つ教員が講義・演習を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護の目的・意義が十分に理解できる。	DP1	定期試験及び授業中の質問やレポートで介護過程の意義や介護過程の一連の流れを答えることができる。
2.	介護過程の展開を学ぶ中で課題解決思考について理解できる。	DP3	チームアプローチにおいて多職種との連携を理解し、事例に対して様々な角度から支援方法を考察できる。
3.	介護過程の実践的展開を通して情報の意味を理解し、情報に基づいた利用者の思いを読み取ることができる。	DP2,4	アセスメントの方法を理解し、提示された事例への介護計画を立案できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法・評価基準） 自己覚知（自分を知るアンケート）	シラバス、テキストに目を通しておく（30分）	自己覚知から介護過程への繋がりを考える（30分）
2.	介護過程とは（介護過程の展開の理解）	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理する（30分）
3.	介護過程の基礎的理解① （介護過程とケアマネジメントの関係性）	介護過程とケアマネジメントについて目を通しておく（30分）	ケアプランと個別援助計画の関係について整理する（30分）
4.	介護過程の基礎的理解② （生活支援としての介護サービス）	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノートにまとめる（30分）
5.	介護過程の基礎的理解③ （ICFモデルについての理解）	ICFモデルについてテキストを読んでおく（30分）	講義での演習の復習をする。（30分）
6.	介護過程における支援関係の体系・形成① （チームアプローチにおける介護福祉士の役割）	図書室のコミュニケーションに関する参考書に目を通す（30分）	介護福祉士と多職種との関係を復習する（30分）
7.	介護過程における支援関係の体系・形成① （信頼関係の形成）	コミュニケーションに関する他講義の学習の整理をする（30分）	コミュニケーションに関する他講義の学習の整理をする（30分）
8.	介護過程における事例検討 （事例検討に関するアセスメントの理解）	図書室のアセスメントに関する参考書に目を通す（30分）	今まで講義で学んだ介護過程の展開を復習しておく（30分）
9.	アセスメントの視点の理解 （ICFモデルの活用）	図書室のアセスメントに関する参考書に目を通す（30分）	講義内容を整理し、ICFモデルの理解を深める（30分）
10.	アセスメントの方法 （情報収集・記録の仕方）	図書室のアセスメントに関する参考書に目を通す（30分）	講義内容を整理し、ICFモデルの理解を深める（30分）
11.	介護計画の立案① （個別援助計画の意義について）	介護計画の立案についてテキストを読んでおく（30分）	今まで講義で学んだ介護過程の展開を復習しておく（30分）
12.	介護計画の立案② （目標・支援方法の設定ついて）	介護計画の立案についてテキストを読んでおく（30分）	今まで講義で学んだ介護過程の展開を復習しておく（30分）
13.	介護計画実施 （実施における留意点）	今まで講義で学んだ介護過程の展開を復習しておく（30分）	作成した介護計画を読み返し内容を深める（30分）
14.	介護計画実施の評価 （評価をふまえた再アセスメント）	テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	作成した介護計画を読み返し内容を深める（30分）
15.	本授業のまとめ	授業を振り返り、疑問や質問等を整理しておく（30分）	講義で学んだ内容や全体を把握して定期試験に臨む（2時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　9「介護過程」中央法規
参考書	「高齢者とのコミュニケーション～利用者とのかかわりを自らの力に変えていく」中央法規
学習成果の評価方法	定期試験（70%）レポート（20%）演習などに取り組む姿勢（10%）を総合的に評価する。 レポートは添削後、返却します。
特記すべき事　項	演習課題レポート、グループワークレポートなどの提出物は提出期限を厳守してください。
質問・相談等の受付	質問、相談等がある場合、授業終了後の教室あるいは授業の前後、非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	介護過程Ⅱ（前期）	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 2単位

授業概要	対象者の、生活課題を分析し根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程や介護過程の展開を習得する。 各領域で学んだ知識と技術を統合した観察力・判断力及び思考力を養う。 ○この授業は介護福祉士として在宅介護（訪問介護、通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護過程の意義と介護過程の展開を理解する。	CP1	ICFの仕組みを理解し、対象者のアセスメント内容を分析できるようになる。
2.	介護過程展開の実践ができる。チームアプローチを理解する。	CP3,4	課題の明確化、介護計画の立案、実践、評価考察ができる。チームケアとしての介護過程の展開ができる。
3.	介護過程のプロセスや実践内容を発表できる。	CP2	事例研究や介護実習、介護職実践セミナー等で介護過程の実践の根拠や経過・評価考察ができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション。学習成果について（評価基準・評価方法）　介護過程の意義と基礎的理解－１ 「介護過程とは」	シラバス、テキストに目を通しておく（30分）	介護過程のプロセスについて復習（30分）
2.	介護過程の意義と基礎的理解－２ 「介護過程の個別的ケアとは」	介護過程とは何かを予習（30分）	日常生活における生活の過程について復習する（30分）
3.	介護過程の意義と基礎的理解－３ 「ICFとは」	ICFについて予習（30分）	ICFとは何かを復習する（30分）
4.	介護過程の意義と基礎的理解－４ 「セルフケア理論とニーズ論とは」	セルフケア理論、ニーズ理論について予習（30分）	セルフケア理論、ニーズ理論について復習（30分）
5.	介護過程の意義と基礎的理解－５ 「セアセスメントの枠組み」	アセスメントについて（30分）	事例に基づいたアセスメント方法を復習する（30分）
6.	介護過程の意義と基礎的理解－６ 「課題とニーズの明確化」	課題とは何か、ニーズとは何かを予習（30分）	介護過程における課題とニーズをまとめる（30分）
7.	事例検討Ⅰ：「学生生活編」個別検討	前回学んだアセスメントについて予習（30分）	事例検討Ⅰについて振り返る（30分）
8.	事例検討Ⅰ：グループワーク	前回学んだ課題とは何か、ニーズとは何かを予習（30分）	事例検討Ⅰについて振り返る（30分）
9.	事例検討Ⅰ：グループワーク	事例検討Ⅰについて読み返す（30分）	グループメンバーの意見をまとめる（30分）
10.	事例検討Ⅰ：グループ発表	発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
11.	事例検討Ⅰ：グループ発表・まとめ	発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
12.	介護過程展開のためのプロセス－１ 「介護過程の展開とアセスメントとプロセス」	介護過程の展開について予習（30分）	介護過程の展開について復習する（30分）
13.	介護過程展開のためのプロセス－２ 「意図的な情報収集」	介護過程のための情報収集について予習（30分）	情報収集の方法について復習する（30分）
14.	介護過程展開のためのプロセス－３ 「課題とニーズの明確化」	介護過程のための課題とニーズについて予習（30分）	ニーズの明確化の方法について復習する（30分）
15.	介護過程展開のためのプロセス－４ 「介護計画の立案」	介護過程のための介護計画立案について予習（30分）	介護計画の立案について復習する（30分）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　９「介護過程」　中央法規
参考書	・ケアプランに活かすICFの視点　日創研　・「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用　中央法規 ・やさしくわかるケアプランの作成と実例　成美堂出版
学習成果の評価方法	筆記試験（７０％）、レポート作成及び発表（２５％）、授業態度（５％）、個人レポートは添削後返却する。
特記すべき事　項	専攻科で学ぶすべての科目内容を理解し、介護過程の実践に活用する。遅刻、早退、欠席は必ず本人が申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16:30~17:30）にお出でください

科　目	介護過程Ⅱ（前期）	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	対象者の、、生活課題を分析し根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程や介護過程の展開を習得する。 各領域で学んだ知識と技術を統合した観察力・判断力及び思考力を養う。 ○この授業は介護福祉士として在宅介護（訪問介護、通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護過程の意義と介護過程の展開を理解する。	CP1	ICFの仕組みを理解し、対象者のアセスメント内容を分析できるようになる。
2.	介護過程展開の実践ができる。チームアプローチの理解をする。	CP3,4	課題の明確化、介護計画の立案、実践、評価考察ができる。チームケアとしての介護過程の展開ができる。
3.	介護過程のプロセスや実践内容を発表できる。	CP2	事例研究や介護実習、介護職実践セミナー等で介護過程の実践の根拠や経過・評価考察等ができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	事例検討Ⅱ：１ー「アニメからのアセスメント方法と介護計画の立案」個別検討	介護過程の展開の事例検討方法を予習（30分）	事例検討Ⅱについて振り返る（30分）
17.	事例検討Ⅱ：２ーグループワーク	個別で検討した事例検討Ⅱについて予習（30分）	事例検討Ⅱについて再度振り返る（30分）
18.	事例検討Ⅱ：２ーグループワーク	個別で検討した事例検討Ⅱのグループの意見をまとめる（30分）	発表に向けてのグループでの意見や紙面構成を振り返る（30分）
19.	事例検討Ⅱ：３ーグループ発表	発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
20.	事例検討Ⅱ：３ーグループ発表、まとめ	発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
21.	事例検討Ⅲ：１ー「DVDからのアセスメント方法と介護計画の立案」　個別検討	事例検討Ⅲの内容について予習（30分）	事例検討Ⅲについて振り返る（30分）
22.	事例検討Ⅲ：２ーグループワーク	個別で検討した事例検討Ⅲについて予習（30分）	事例検討Ⅲについて再度振り返る（30分）
23.	事例検討Ⅲ：２ーグループワーク	個別で検討した事例検討Ⅲのグループの意見をまとめる（30分）	発表に向けてのグループでの意見や紙面構成を振り返る（30分）
24.	事例検討Ⅲ：３ーグループ発表	発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
25.	事例検討Ⅲ：３ーグループ発表、まとめ	発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
26.	事例検討Ⅳ：１ー「具体的な事例によるアセスメント方法と介護計画に立案」個別検討	事例検討Ⅳの内容について予習（30分）	事例検討Ⅳについて振り返る（30分）
27.	事例検討Ⅳ：２ーグループワーク	個別で検討した事例検討Ⅳについて予習（30分）	事例検討Ⅳについて再度振り返る（30分）
28.	事例検討Ⅳ：２ーグループワーク	個別で検討した事例検討Ⅳのグループの意見をまとめる（30分）	発表に向けてのグループでの意見や紙面構成を振り返る（30分）
29.	事例検討Ⅳ：３ーグループ発表	発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
30.	事例検討Ⅳ：３ーグループ発表、まとめ	発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　９「介護過程」　中央法規
参考書	・ケアプランに活かすICFの視点　日創研　・「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用　中央法規 ・やさしくわかるケアプランの作成と実例　成美堂出版
学習成果の評価方法	筆記試験（７０％）、個人レポート、グループレポート作成及び発表（２５％）、授業態度（５％）、個人レポートは添削後返却する。
特記すべき事　項	専攻科で学ぶすべての科目内容を理解し、介護過程の実践に活用する。遅刻、早退、欠席は必ず本人が申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16:30~17:30）にお出でください

科　目	介護過程Ⅱ（後期）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	本人の望む生活の現実に向けて、生活課題を分析し根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程が習得できるよう学ぶ。 対象者主体の介護過程が展開できるようになる。 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護過程の展開を支える考え方を理解する。	DP1,2	ICFの仕組みを理解し、要介護者のアセスメント内容を分析できるようになる。
2.	介護実習Ⅱでの介護過程の展開を実践し、介護計画の立案、実践ができる。	DP1,3	担当する要介護者を理解するための、意図的な情報収集、課題とニーズの明確化、介護計画の立案、実践、評価考察ができる。
3.	介護過程のプロセスや実践内容や経過・結果をまとめ発表できるようになる。	DP1,4	事例研究や介護実習、介護職実践セミナー等で介護過程の実践の根拠や経過・評価考察ができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション。学習成果について（評価基準、評価方法） 介護実習Ⅱにおける介護過程展開の振り返り	介護実習Ⅱでの介護過程を振り返る（30分）	介護過程の実践内容を再構築する（30分）
2.	介護実習Ⅱにおける介護過程展開の振り返り	介護実習Ⅱでの介護過程を振り返る（30分）	介護過程の実践内容を再構築する（30分）
3.	介護職実践セミナーレポート発表と要旨集制作の意義	レポートのテーマや構成について予習（30分）	介護過程をまとめレポートを構成する（30分）
4.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー１	レポートのテーマや構成について予習（30分）	介護過程をまとめレポートを構成する（30分）
5.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー２	レポート内容に必要な参考文献を調べる（30分）	必要な参考文献をまとめる（30分）
6.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー３	レポートで伝えるべき内容を再構成する（30分）	指導されたレポート内容を再構成する（30分）
7.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー４	レポートで伝えるべき内容を再構成する（30分）	指導されたレポート内容を再構成する（30分）
8.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー５	パワーポイントの内容を検討する（30分）	指導されたパワーポイントの内容を考える（30分）
9.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー６	パワーポイントの内容を検討する（30分）	指導されたパワーポイントの内容を考える（30分）
10.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー７	パワーポイントの内容を検討する（30分）	指導されたパワーポイントの内容を考える（30分）
11.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー８	レポート内容を時間内で発表できるようにする（30分）	発表の読み原稿を作成する（30分）
12.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー９	作成した読み原稿で発表の練習をする（30分）	指導された発表内容を検討する（30分）
13.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー１０	作成した読み原稿で発表の練習をする（30分）	指導された発表内容を検討する（30分）
14.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施ー１１	発表レポートとパワーポイントと読み原稿のチェックをする（30分）	発表レポートとパワーポイントと読み原稿のチェックをする（30分）
15.	介護職実践セミナーレポート発表および指導ー１	発表レポート内容への質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分を再構築する（30分）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　９「介護過程」中央法規
参考書	・ケアプランに活かすICFの視点　日創研　・「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用　中央法規 ・やさしくわかるケアプランの作成と実例　成美堂出版　・授業中に説明及び資料配布
学習成果の評価方法	筆記試験（５０％）、介護職実践セミナーレポート作成及び発表（４５％）、授業態度（５％）、介護職実践セミナーレポートは添削後返却する。
特記すべき事　項	専攻科で学ぶすべての科目内容理解し、介護過程の実践に活用する。遅刻、早退、欠席は必ず本人が申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）にお出で下さい。

科　目	介護過程Ⅱ（後期）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	本人の望む生活の現実に向けて、生活課題を分析し根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程が習得できるよう学ぶ。 対象者主体の介護過程が展開できるようになる。 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護過程の展開を支える考え方を理解する。	DP1,2	ICFの仕組みを理解し、要介護者のアセスメント内容を分析できるようになる。
2.	介護実習Ⅱでの介護過程の展開を実践し、介護計画の立案、実践ができる。	DP1,3	担当する要介護者を理解するための、意図的な情報収集、課題とニーズの明確化、介護計画の立案、実践、評価考察ができる。
3.	介護過程のプロセスや実践内容や経過・結果をまとめ発表できるようになる。	DP1,4	事例研究や介護実習、介護職実践セミナー等で介護過程の実践の根拠や経過・評価考察ができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	介護職実践セミナーレポート発表および指導ー２	発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
17.	介護職実践セミナーレポート発表および指導ー３	発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
18.	介護職実践セミナーレポート発表および指導ー４	発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
19.	介護職実践セミナーレポート発表および指導ー５	発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
20.	介護職実践セミナーレポート発表および指導ー６	発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
21.	介護職実践セミナーレポート発表および指導ー７	発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
22.	介護職実践セミナーレポート発表および指導ー８	発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
23.	介護過程とチームアプローチー１ 「介護福祉職と介護過程」	介護福祉士としての介護過程について予習（30分）	介護福祉士としての介護過程についてまとめる（30分）
24.	介護過程とチームアプローチー２ 「ケアカンファレンスの意義」	ケアカンファレンスについて予習（30分）	ケアカンファレンスについてまとめる（30分）
25.	介護過程とチームアプローチー３ 「多職種連携における介護過程の意義」	他職種連携の意義について予習（30分）	他職種連携の意義についてまとめる（30分）
26.	介護過程とチームアプローチー４ 「介護計画と個別介護計画」	介護計画と個別介護計画について予習（30分）	介護計画の立案方法についてまとめる（30分）
27.	介護過程の展開の理解ー１ 「対象者に応じた介護過程の展開とは」	要介護者理解のためのICF について予習（30分）	ＩＣＦについてまとめる（30分）
28.	介護過程の展開の理解ー２ 「介護過程の事例検討の意義」	事例検討の意義について予習（30分）	事例検討内容を復習する（30分）
29.	介護過程の展開の理解ー３ 「介護過程の必要性と意義」	介護過程を学ぶ意義について振り返る（30分）	介護過程の意義について復習する（30分）
30.	介護過程の展開の理解ー４「まとめ」	介護過程の展開の意義を振り返る（30分）	介護過程の展開に必要なプロセスを理解する（30分）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　９「介護過程」中央法規
参考書	・ケアプランに活かすICFの視点　日創研　・「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用　中央法規 ・やさしくわかるケアプランの作成と実例　成美堂出版　・授業中に説明及び資料配布
学習成果の評価方法	筆記試験（５０％）、介護職実践セミナーレポート作成及び発表（４５％）、授業態度（５％）、介護職実践セミナーレポートは添削後返却する。
特記すべき事　項	専攻科で学ぶすべての科目内容理解し、介護過程の実践に活用する。遅刻、早退、欠席は必ず本人が申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）にお出で下さい。

科　目	介護総合演習（前期）	開講時期 履修方法	１年前期 選択、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美・教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	演習 1単位

授業概要	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護実践の確認や施設などの概要を習得し、介護実習の重要性を理解する。実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等を身ににつけるとともに、知識と技術の統合のもととなるエビデンス(科学的根拠)に則った考え方ができるようになる。実習後に行う介護職実践セミナーに向けて研究的態度で実習に臨む。 介護実習の目標設定や課題を抽出し、実習事前に自己学習を行う。実習記録や介護過程の展開法について習得する。チームケアのありかた、ケアカンファレンスの持ち方を学ぶ。 ＊この科目は看護師・介護福祉士として病院や施設などで実務経験5年以上の経験を持つ教員が担当する。

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護実習の目標が明確になり、課題を見つけるとともに社会に貢献できる実践力を身につけることができる	DP2 DP3	実習施設において目標、課題について明確に伝えることができ、達成感を認識できるようになる
2.	観察、傾聴、コミュニケーション、リーダーシップなどの力を身につけ、多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようになる。	DP2	実習記録物、介護過程の展開記録、施設よりの評価を基準とする
3.	実習後の集大成として事例研究や実習全体のレポートができる	DP2 DP3	介護職実践セミナーの要旨集を完成できる

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション(学習成果、評価方法、評価基準) 介護実習　体験を通した学びの展開と目標	保育実習を振り返り、自身の学びについて考える（30分）	講義で学んだ内容を再考する（30分）
2.	介護実習の概要　介護総合演習の目的 「介護実習」に対する意気込みや期待について発表をする。	テキストを読み介護実習について考える（30分）	講義で学んだ内容を再考し実習の重要性を考える（30分）
3.	介護福祉実習の全体像 厚生労働省が示す「介護実習」のねらいについて学ぶ	テキストを読み福祉系実習について考える（30分）	講義で学んだ内容を再考し実習で何を学ぶべきかをを考える（30分）
4.	介護実習の展開過程と課題 「介護実習Ⅰ・Ⅱ」での学びのポイントについてグループディスカッションを行う	テキストを読み介護実習の課題は何か考える（30分）	講義で学んだ内容を再考し実習の概要や課題について考える（30分）
5.	実習の準備と基礎知識 図書館での調べ学習。実習施設の種類を調べ、その法的根拠から現状までを学ぶ	関連図書を読み実習施設について調べる（30分）	施設の法的根拠、現状等を調べレポートに取り掛かる（30分）
6.	実習施設等の理解 前回の調べ学習で得た情報をレポート発表する	関連図書を読み実習施設について調べる（30分）	施設の法的根拠、現状等を調べレポートを提出する（60分）
7.	見る、聴く、話す、まとめる力を育てる 個別ケアの視点を中心に思考の過程を学ぶ	実習のしおりに目を通しておく（30分）	実習のしおりの内容を確認し不明な点を調べる（30分）
8.	実習計画について、及び立案の仕方 介護実習の具体的な計画、記録等についてグループで話し合いレポートにまとめる	テキストを読み介護実習や介護計画とは何かについて考える（30分）	介護実習の具体的な計画、記録等について考える（30分）
9.	実習記録について １言葉をたくさん知る　２数学的な思考（推論）３共感力を育てる	テキストを読み介護実習における記録について考える（30分）	介護実習の具体的な計画、記録等について考える（30分）
10.	実習記録の実際 本専攻科の実習記録用紙について説明。効果的な記録の方法について学ぶ。	テキストや参考図書を中心に読み記録の書き方について考える（30分）	介護実習の具体的な計画や記録を自分自身の生活をもとに記入してみる（30分）
11.	実習における指導と相談 実習のしおりに沿って説明。実習中における報告・連絡・相談についてグループワークを通して学ぶ。	実習のしおりに目を通しておく（30分）	チームケアやケアカンファレンスの持ち方についてグループ討議とレポート提出（30分）
12.	チームケアについて、ケアカンファレンスについて 実習中に行われるグループカンファレンスを想定してデモンストレーションを行う	テキストを読みチームケアについて考える（30分）	チームケアやケアカンファレンスの持ち方についてグループ討議とレポート提出（30分）
13.	介護実習と介護過程の展開 「介護過程Ⅰ」「介護過程Ⅱ」と連動してアセスメントについて考える（アセスメントシート利用）	介護過程のテキストを読みアセスメントを理解する（30分）	アセスメントシート記入方法と必要性を理解しレポート提出（30分）
14.	介護実習Ⅰ事前指導 「介護実習Ⅰ」に臨むつもりでより具体的に目標を考え、個人票を作成する	介護実習の目的を明確にし、目標を具体的にあげられるようにする（30分）	実習の目的や目標を記入し個人票の仕上げをする（30分
15.	介護実習Ⅰ事前指導 「介護実習Ⅰ」に臨むつもりでより具体的に目標を考え、個人票を作成する	介護実習の目的を明確にし、目標を具体的にあげられるようにする（30分）	実習の目的や目標を記入し個人票の仕上げをする（30分

教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護総合演習・介護実習」（中央法規）
参考書	「介護記録の書き方・読み方・活かし方」（中央法規） その他授業中に適宜紹介します。
学習成果の評価方法	レポート提出(50%)、グループワーク参加(40%)、受講態度(10%)等で総合的に評価します。 レポートは評価、フィードバック後に返却します。
特記すべき事　項	記録等の提出物については時間厳守してください。遅れた場合は減点対象となります。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来てください。内容により即答、次回持越し、研究室対応とします。 研究室対応は金曜日16：30～17：30に行います。

科　目	介護総合演習（後期）	開講時期 履修方法	１年後期 選択、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美・教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設などの概要を習得し、介護実習の重要性を理解する。実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等を身ににつけるとともに、知識と技術の統合のもととなるエビデンス(科学的根拠)に則った考え方ができるようになる。実習後に行う介護職実践セミナーに向けて研究的態度で実習に臨む。 介護実習の目標設定や課題を抽出し、実習事前に自己学習を行う。実習記録や介護過程の展開法について習得する。チームケアのありかた、ケアカンファレンスの持ち方を学ぶ。 ＊この科目は看護師・介護福祉士として病院や施設などで実務経験5年以上の経験を持つ教員が担当する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	介護実習の目標が明確になり、課題とともに社会に貢献できる実践力を身に付けることができる。	DP2 DP3	実習施設において目標、課題について明確に伝えることができ、達成感を認識できるようになっている
2.	観察、傾聴、コミュニケーション、リーダーシップなどの力を身に付け、多面的に考察し様々な状況に対応することができる。	DP2	実習記録物、介護過程の展開記録、施設よりの評価を基準とする
3.	実習後の集大成として事例報告(介護過程の展開)や実習全体のレポートができる。	DP2 DP3	介護職実践セミナーの要旨集を完成でき、さらに、パワーポイントを用いて発表することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法・評価基準） 介護実習Ⅰ事後指導	実習中の疑問質問を挙げておく（30分）	実習前半の振り返りと今後の課題についてレポート提出
2.	介護実習Ⅰ事後指導 実習施設の評価を受けて各自フィードバックを行う	実習中の疑問質問を挙げておく（30分）	実習前半の振り返りと今後の課題についてレポート提出
3.	介護実習Ⅰ事例研究指導 実習Ⅰで経験した事例をもとに課題と向き合う。レポート作成	事例研究について調べておく（30分）	事例についてレポート準備をする（30分）
4.	介護実習と介護過程の展開① 「介護過程Ⅱ」と連動して介護過程の展開について学ぶ アセスメントから具体的行動計画まで	介護過程についてテキストを読んでおく（30分）	事例についてレポート準備をする（30分）
5.	介護実習と介護過程の展開② 「介護過程Ⅱ」と連動して介護過程の展開について学ぶ 実践内容についてから評価・考察まで	介護過程についてテキストを読んでおく（30分）	介護過程の展開の用紙を完成する
6.	障がい児(者)の支援計画 実習Ⅱの施設で出会うであろう障がい者について学ぶ	テキストを読んで障害者について調べておく（30分）	講義で学んだ障害児の支援を再考する（30分）
7.	介護実習Ⅱ事前指導 実習Ⅱの目的を明確にして個人票を作成する 実習Ⅱに臨む姿勢について学ぶ	介護実習Ⅱについて調べて置く	介護実習Ⅱについて実習のしおりを読んで準備を行う
8.	介護実習Ⅱ事前指導 実習Ⅱの目的を明確にして個人票を完成する	介護実習Ⅱについて調べて置く	介護実習Ⅱについて実習のしおりを読んで準備を行う
9.	介護実習Ⅱ中間指導(学内研究日) 担当利用者の介護計画を見直す	実習中の疑問質問を挙げておく（30分）	介護過程の展開実施
10.	介護実習Ⅱ事後指導 実習施設の評価を受けて各自フィードバックを行う	実習中の疑問質問を挙げておく（30分）	実習Ⅱの振り返りを行う（30分）
11.	介護実習ⅠおよびⅡ事例研究指導 介護職実践セミナーに向けて研究テーマを決め、研究内容を明確にする	事例研究について調べておく（30分）	介護職実践セミナーに向けてレポート原稿、パワーポイントの準備をする
12.	介護実習ⅠおよびⅡ事例研究指導 介護職実践セミナーに向けて研究テーマを決め、研究内容に取り組む	事例研究について調べておく（30分）	介護職実践セミナーに向けてレポート原稿、パワーポイントの準備をする
13.	事例研究発表	発表に向けて準備を行う（30分）	介護職実践セミナーに向けてレポート原稿、パワーポイントの準備をする
14.	事例研究発表の評価と考察 研究内容を振り返り今後に向けて自己評価を行う	セミナー発表後の自己評価を行う（30分）	セミナー発表後の自己評価を行う（30分）
15.	本授業のまとめと介護実習のまとめ	介護実習を振り返る（30分）	介護実習を振り返る（30分）

教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編　「介護総合演習・介護実習」（中央法規）
参考書	「介護記録の書き方・読み方・活かし方」（中央法規） その他授業中に適宜紹介します
学習成果の評価方法	レポート提出(50%)、グループワーク参加(40%)、受講態度(10%)で総合的に評価します。レポートは評価、フィードバック後に返却します。
特記すべき事　項	記録等の提出物については時間厳守してください、遅れた場合は減点対象となります。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来てください。内容により即答、次回持越し、研究室対応とします。研究室対応は金曜日16：30～17：30に行います。

科　目	介護実習Ⅰ	開講時期 履修方法	１年前期 選択、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美・教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	学外実習 1.3単位
授業概要	講義、演習を通して学んだ理論と技術を、実習を通して統合・活用し理解を深める。また、職業倫理を身に付けるとともに、実践体験を整理し理論化して行く。更に「人間の尊厳」という理念のもと、対象者の「自立」を支援していくことができる能力を養う。　介護施設を利用する対象者への理解を深めるためのコミュニケーション能力や個別介護を学ぶ。　対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を養う。　各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
１．	対象者の個別性を理解するアセスメント能力を身に付け、介護を取り巻く問題に関心を持ち、ニーズに応えることができる。	DP2,3	コミュニケーション能力が養われていること。対象者への観察力がありアセスメントを通して対象者の生活ニーズを抽出できていること。
２．	対象者を多角的に理解するため、多職種協働の実践状況を学ぶとともに、日常的生活支援や介護に関する専門知識・介護技術を身に付けることができる。	DP2,4	疾病や障害に対する知識を基に対象者を支援できること。基礎的な介護技術の知識や技術を応用し個別的身体介護ができること。
３．	施設や地域における生活支援を理解する。介護過程の展開を実践的展開や研究をすることができる。	DP１,２	対象者に施設や地域がどのように日常生活支援の実践ができているかを学ぶ。介護過程の展開を通して、担当対象者を理解し自立支援のあり方を学ぶ。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
学習成果について（評価基準・評価方法） 介護実習・・・7日間 介護実習場所・・・老人保健施設、特別養護老人ホーム、小規模多機能施設、 通所介護施設、訪問介護施設など 介護実習内容・・・ ・対象者の尊厳を護り個別性を理解し、その人らしい日常生活支援を学ぶ。 ・介護サービスが必要な対象者の在宅生活や介護施設での日常生活を理解する。 ・対象者の個別性を理解し、コミュニケーションを図ることができる。 ・日常生活支援における介護サービスの必要性を学び、個別的な会議技術を学ぶ。 ・チームケアの一員としての介護職の役割や多職種との連携を理解する。	【事前学習】 ・実習前までに学んだ全ての教科を再度見直し実習に備える。 ・実習施設が決定したらその施設についての概要等を調べる。 ・実習に対する自分の目標を明確にしておく。 【実習期間中】 ・1日の実習内容を振り返り、目標に沿って学びと考察を記録する。更に次の目標を立てて実習に臨む。	【事後学習】 ・介護実習で学び体験したことを振り返り実習のまとめと、記録類の整理をする。 ・まとめた記録類とともに自己評価を記入し実習施設に提出する。 ・施設からの評価を基にフィードバックを行う。

教科書	最新　介護福祉士養成講座　１０「介護総合演習・介護実習」中央法規
参考書	・介護記録の書き方・読み方・活かし方　中央法規　・介護記録の書き方　成美堂出版 ・介護職のための言葉のかけ方・話の聞き方　成美堂出版　・ユーキャンの介護レクリエーション春夏秋冬　ユーキャン学び出版
学習成果の評価方法	介護過程の展開（５０％）、介護実習記録（２５％）、実習施設指導者評価（２５％） 実習終了後に個人面談を行いフィードバックする。
特記すべき事　項	介護実習では、介護実習記録と共に関連する疾病や生活支援技術などを調べレポートを提出する（実習記録と共に実習施設に提出） 遅刻、早退、欠席は必ず本人が介護施設と担当教員に直接連絡すること。
質問・相談等の受付	授業終了時、オフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）に研究室にて対応する。実習中の相談は前もって連絡を受け実習巡回時に対応する。

科　目	介護実習Ⅱ	開講時期 履修方法	１年後期 選択、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美・教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	学外実習 3.7単位
授業概要	講義、演習を通して学んだ理論と技術を、実習を通して統合・活用し理解を深める。また、職業倫理を身に付けるとともに、実践体験を整理し理論化して行く。更に「人間の尊厳」という理念のもと、対象者の「自立」を支援していくことができる能力を養う。　介護施設を利用する対象者への理解を深めるためのコミュニケーション能力や個別介護を学ぶ。　対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を養う。　各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
１．	対象者の個別性を理解するアセスメント能力を身に付け、介護を取り巻く問題に関心を持ち、ニーズに応えることができる。	DP2,3	コミュニケーション能力が養われていること。対象への観察力があり、アセスメントを通して対象者の生活ニーズを抽出できていること。
２．	対象者を多角的に理解するため、多職種協働の実践状況を学ぶとともに、日常的生活支援や介護に関する専門知識・介護技術を身に付けることができる。	DP2,４	疾病や障害に対する知識を基に対象者を支援できること。基礎的な介護技術に知識や技術を応用し個別的身体介護ができること。
３．	施設や地域における生活支援を理解する。介護過程の展開を実践的展開や研究をすることができる。	DP１,２	対象者に施設や地域がどのように日常生活支援の実践ができているかを学ぶ。介護過程の展開を通して、担当対象者を理解し自立支援のあり方を学ぶ。。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
学習成果について（評価基準、評価方法） 介護実習・・・２０日間 介護実習場所・・・老人保健施設、特別養護老人ホーム、身体障害者（児）療護施設など 介護実習内容・・・ ・ICFを活用したアセスメント方法で、施設で生活する対象者のニーズを明確にする。 ・担当対象者野介護過程の展開（アセスメント、ニーズの把握、介護計画の立案・実施・評価・考察）を行い、根拠（エビデンス）に基づいた個別ケアを実践する。 ・対象者本位の介護サービスを提供するためには、他職種共同によるチーム体制である ことを理解する。 ・人権擁護、職業倫理を身に付け、自らの介護観を構築する。	【事前学習】 ・実習前までに学んだ全ての教科を再度見直し実習に備える。 ・実習施設が決定したらその施設についての概要を調べる。 ・実習に対する自分の目標を明確にしておく。 【実習期間中】 ・1日の実習内容を振り返り、目標に沿っ手学びと考察を記録する。更に次の目標を立てて実習に臨む。 ・担当対象者の介護過程について、学内研究を行う。	【事後学習】 ・介護実習で学び体験したことを振り返り実習のまとめと記録類の整理をする。 ・まとめた記録類と自己評価と共に自己評価を記入し、実習施設に提出する。 ・実習施設からの評価を基にフィードバックを行う。 ・介護過程の展開を振り返り「介護職実践セミナー」に備える。

教科書	最新　介護福祉士養成講座　１０「介護総合演習・介護実習」中央法規
参考書	・介護記録の書き方・読み方・活かし方　中央法規　・介護記録の書き方　成美堂出版 ・介護職のための言葉のかけ方・話の聞き方　成美堂出版　・ユーキャンの介護レクリエーション春夏秋冬　ユーキャン学び出版
学習成果の評価方法	介護過程の展開（５０％）、介護実習記録（２５％）、実習施設指導者評価（２５％） 実習終了後に、個人面談を行いフィードバックを行う。
特記すべき事　項	介護実習では、介護実習記録と共に関連する疾病や生活支援技術などを調べレポートを提出する（実習記録と共に実習施設に提出） 遅刻、早退、欠席は必ず本人が介護施設と担当教員に直接連絡すること。
質問・相談等の受付	授業終了時、オフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）に研究室にて対応する。実習中の相談は前もって連絡を受け実習巡回時に対応する。

科　目	発達と老化の理解	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　角　眞由美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	発達の視点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴など基礎的知識を習得する。 人間の成長と発達の基礎的理解をし、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ。厚生労働省のガイドラインに示された領域「こころとからだのしくみ」より、介護サービスを提供するに際して、利用者の尊厳と自立への支援の意味を十分理解し、利用者のQOL(生活の質）を高めるために必要な発達と老化に関する基礎的知識について学ぶ。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	人間の成長と発達について基礎的知識を習得する。	DP1	乳幼児から高齢者に至る人の生涯の発達段階と援助の仕方について理論と実践の融合性の重要性を習得する。
2.	老化に伴うこころとからだの変化、高齢者の疾病とその特徴について理解する。	DP2,3	老化に伴う身体的・心理的・社会的変化や高齢者特有の疾病と日常生活の変化を学ぶ。
3.	高齢者の生活支援のあり方と留意点を理解する。	DP4	高齢者の日常生活が老化や疾病により、介護が必要になった場合の留意点を学ぶ。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション「学習成果について（評価方法・評価基準）」 人間の成長と発達の基礎的知識	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
2.	人間の発達段階と発達課題ー１ 「発達理論、発達段階と発達課題、身体的機能の成長と発達」	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
3.	人間の発達段階と発達課題ー２ 「心理的機能の発達、社会的機能の発達」	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
4.	老年期の特徴と発達課題	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
5.	老化にともなう身体的な変化と生活への影響	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
6.	老化にともなう心理的変化と生活への影響	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
7.	老化にともなう社会的変化と生活への影響	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
8.	健康長寿に向けての健康、症状・疾患の特徴	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
9.	高齢者に多い症状と生活上の留意点ー１ 「骨格系・筋系」	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
10.	高齢者に多い症状と生活上の留意点ー２ 「脳・神経系　、皮膚・感覚器系」	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
11.	高齢者に多い症状と生活上の留意点ー３ 「循環器系　、呼吸器系」	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
12.	高齢者に多い症状と生活上の留意点ー４ 「消化器系　　腎・泌尿器系」	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
13.	高齢者に多い症状と生活上の留意点ー５ 「内分泌・代謝系　、歯・口腔疾患」	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
14.	高齢者に多い症状と生活上の留意点ー６ 「悪性新生物（がん）　、感染症　、精神疾患　、その他」	授業範囲を読む（2時間）	授業で学んだ内容をノートにまとめる（2時間）
15.	本授業のまとめと他科目との関連性	これまでの授業を振り返る（2時間）	本授業を振り返りまとめる（2時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　１２「発達と老化の理解」中央法規
参考書	・介護のしくみ　　講談社　　・　授業中に適宜紹介及び資料配布
学習成果の評価方法	定期試験（80%）、レポート（10%）、授業態度等（10%）、レポートは添削後返却する。
特記すべき事　　項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日１６：３０～１７：３０）にお出でください

科　目	認知症の理解（前期）	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　萬竹　恵美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	1,認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護支援の視点を習得する。 2,各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断慮力及び思考力を養い、個別介護を習得する。 3,その人を取り巻く状況や医学的・心理的側面から見た認知症の基礎的理解、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響について学ぶ。また、本人主体の理念に基づいた認知症ケア実践と、地域で暮らすためのサポート体制（連携と協働）について学ぶ。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	認知症の理解、原因、症状、予防について医学的側面から基礎知識を習得することができる。	DP1	定期試験及びミニテストで認知症に関する基礎知識について6割以上解答できる。
2.	認知症の人の心理的と家族の理解を深めることができる。	DP2,3	認知症の行動・心理症状について理解し、利用者とのコミュニケーション対応ができる。
3.	認知症ケアの基礎を習得することができる。	DP4	事例検討において、個人またはグループでその対応について発表できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法・評価基準） 第1章：認知症の基礎的理解 1、認知症とは何か（定義・判断基準・重症度）、演習2-3	テキスト見開き～P12 P65～P77を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
2.	2、脳のしくみ 3、認知症の人の心理 演習1-3	テキストP14～31を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
3.	第2章：認知症の症状・診断・治療・予防 1、中核症状の理解 2、生活障害の理解	テキストP34～47を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
4.	3、BPSDの理解	テキストP49～P63を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
5.	4、原因疾患と症状・生活障害 演習2-4	テキストP78～9を5熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
6.	5、治療薬 6、予防	テキストP96～P106を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
7.	1～6回までのミニテスト（またはレポート）	1～6回までの復習（2時間）	解答できなかった点をノートにまとめる（2時間）
8.	7-1、若年性認知症について　※DVD視聴（レポート提出）	テキストP92～94を熟読（2時間）	視聴した内容をまとめる（2時間）
9.	7-2、若年性認知症について	テキストP92～94を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
10.	第3章：認知症ケアの歴史と理念 1、認知症ケアの変遷 2、理念・倫理、演習3-1	テキストP110～135を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
11.	3、当事者の視点（認知症の人の想い）	テキストP136～P150を熟読（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
12.	4-1、認知症の人とその家族への支援 ※DVD視聴（レポート提出）	テキストP136～150、 P264～P280を熟読（2時間）	視聴した内容をまとめる（2時間）
13.	4-2、認知症の人とその家族への支援 ※DVD視聴（レポート提出）	テキストP136～150、 P264～P280を熟読（2時間）	視聴した内容をまとめる（2時間）
14.	4-3、認知症の人とその家族への支援 ※対応事例発表	13回で提案された対応事例を考える（2時間）	自己・他己評価をまとめる（2時間）
15.	本授業のまとめ （ミニテスト・レポート・過去問フィードバック）	本授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく（2時間）	本授業を振り返り定期試験に備える（2時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座　13「認知症の理解」中央法規
参考書	授業中に適宜紹介および配布します。参考DVD：認知症の人の体験世界を感じてみよう～認知症介護の原点として～、 よくわかる認知症の知識と対応、明日の記憶、毎日がアルツハイマー他
学習成果の評価方法	定期試験（70%）、ミニテストまたはレポート及びプレゼンテーション（20%）、授業態度等（10%）で総合的に評価します。 ミニテスト及びレポートは添削後返却します。
特記すべき事　項	授業中の私語は厳禁とします。遅刻、早退、欠席は必ず本人が連絡すること。
質問・相談等の受付	授業中にその都度対応します。（内容により即答または次回持ち越し）

科　目	認知症の理解（後期）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　大川　絹代	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。また、認知症を取り巻く状況や医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解し、認知症の進行に応じた介護のあり方や、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて、グループワーク、ディスカッションを通して主体的に学ぶ。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	認知症の理解、原因、症状、予防について医学的・心理的側面から基礎知識を習得することができる。	DP1,3	定期試験およびレポートで認知症に関する基礎知識について6割以上解答できる。
2.	認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解することができる。	DP4	認知症の行動、心理状態について理解し、疑似体験、ロールプレイングにて、利用者とのコミュニケーション対応ができる。
3.	認知症ケアのための連携と協働、家族への支援について理解し、具体的事例について考えを深めることができる。	DP2	事例検討において、個人またはグループで、その対応について発表することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 認知症が及ぼす心理的影響	シラバス、テキスト第3章-1に目を通しておく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
2.	認知症の人の特徴的な心理行動	テキスト第3章-2の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
3.	認知症の人の特徴的な行動障害	テキスト第3章-3の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
4.	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	テキスト第4章-1の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
5.	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②	テキスト第4章-2の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
6.	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③	テキスト第4章-3の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
7.	若年性認知症の人の生活の理解と支援①	テキスト第4章-4の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
8.	若年性認知症の人の生活の理解と支援②	テキスト第4章-5の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
9.	地域におけるサポート体制①	テキスト第4章-6の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
10.	地域におけるサポート体制②	テキスト第4章-7の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
11.	介護者支援（家族への支援）	テキスト第5章-1の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
12.	介護者支援（介護福祉職への支援）	テキスト第5章-2の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
13.	連携と協働（チームアプローチ①）	テキスト第6章-1の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
14.	連携と協働（チームアプローチ②）	テキスト第6章-2の講義予定範囲を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
15.	本授業のまとめ	後期授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく（2時間）	後期授業を振り返り定期試験に備える（2時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座13「認知症の理解」　中央法規
参考書	適時、授業内で提示
学習成果の評価方法	試験60%、レポート30%、授業参加度（取組、発表）10%。レポートは解説を加えフィードバックします。
特記すべき事　　項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。 遅刻した際は、授業終了時に担当教員に申し出ること。申し出がない場合は欠席となります。
質問・相談等の受付	質問、相談があるときはオフィスアワー（火曜日16時～１７時）に研究室にて受け付けます。

科　目	障害の理解	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　大川　絹代	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	障害のある人の心理や身体的機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。特に、障害の基礎的理解、障害の医学的心理的側面の基礎的理解を深め、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援、連携と協働、家族への支援について考え、グループワーク、ディスカッションを通して、実践的・主体的に学ぶ。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する。	DP1	定期試験およびレポートで６割以上解答できる。
2.	障害のある人のライフステージや特性を踏まえ、心身への影響や心理的な変化を理解し、ＱＯＬを高める支援につなぐことができるようになる。	DP1,3	講義中の質問への解答、グループワーク、レポートで考えをまとめ解答することができる。
3.	障害のある人と家族を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解する。	DP1	講義中の発表、ディスカッション、レポートで考えをまとめ解答することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 障害の概念と障害者福祉の基本理念	教科書１章１．２熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
2.	障害者福祉に関連する制度と介護保険制度	教科書１章３．４熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
3.	障害のある人の心理と肢体不自由（運動機能障害）	教科書２章１．２熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
4.	視覚障害	教科書２章３熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
5.	聴覚・言語障害	教科書２章４熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
6.	重複障害	教科書２章５熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
7.	内部障害	教科書２章６熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
8.	重症心身障害	教科書２章７熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
9.	知的障害	教科書３章１熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
10.	精神障害	教科書３章２熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
11.	高次脳機能障害	教科書３章３熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
12.	発達障害	教科書３章４熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
13.	難病	教科書３章５熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
14.	地域のサポート体制とチームアプローチ	教科書４章１．２熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
15.	家族への支援	教科書５章１．２熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）

教科書	最新　介護福祉士養成講座１４　「障害の理解」中央法規
参考書	適時、授業内で提示
学習成果の評価方法	試験60%、レポート30%、授業参加度（取組、発表）10%。レポートは解説を加えフィードバックします。
特記すべき事　　項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。 遅刻した際は、授業終了時に担当教員に申し出ること。申し出がない場合は欠席となります。
質問･相談等の受付	質問、相談があるときはオフィスアワー（火曜日16時～１７時）に研究室にて受け付けます。

科　目	こころとからだのしくみ（前期）	開講時期 履修方法	１年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人間の欲求や尊厳の理解をする上で大切な生理学、運動学、精神心理学等をもとに、加齢や疾患等でどのような生活障害が生じるかを学び、日常生活動作(ADL)や手段的日常動作(IADL)など人の行動に関連したこころとからだのしくみについての理解します。 また、介護実践の根拠となる心身の構造や機能および発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援すると言う観点から、身体的、心理的、社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につけます。 ＊この授業は看護師として臨床および訪問保健指導に10年以上携わった教員が事例等を参考に教授します。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	オリエンテーション(学習成果、評価方法、評価基準) 人間の欲求、尊厳について基本的理解ができる。	DP１	定期試験で6割以上、授業中に行う小テストで8割以上をとること(小テストは随時再試験も行う)
2.	こころとからだは相互に影響しあい意欲や行動などに影響を及ぼすことを理解できる。	DP１	自分自身の意欲や行動に関してグループディスカッションを行い発表する。小テストで自分の意見を記録できる(小テストは随時再試験も行う)
3.	人の行動と人体の解剖生理、疾病等介護福祉士として必要な専門知識を身に付けることができる。	DP１	"授業中に行う小テストで8割以上をとること 解剖図を描き、人体はそれぞれに関連し合っていることをレポートを通して理解すること。"

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション(学習成果、評価方法、評価基準) 人間の欲求の基本的理解について学ぶ(基本的欲求・社会的欲求など)	関連する書物を読み人間の欲求について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め自身の欲求について深く考えてみる(2時間)
2.	自己概念と尊厳・自己概念に影響する要因 尊厳という言葉にはどんな意味があるかグループワーク等でディスカッションを行う	関連する書物を読み自己概念について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め人間の尊厳について深く考えてみる(2時間)
3.	自己概念と尊厳・自己実現と生きがい 生きがいとは何かグループワーク等でディスカッションを行い発表をする	関連する書物を読み自己実現について学んでおく(2時間)	自己実現や生きがいについて深く考えてみる(2時間)
4.	こころのしくみの基礎、感情・意欲・動機づけのしくみ テキストを中心に動機づけのこころの仕組みについて学ぶ	関連するテキストを読み動機づけについて学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め動機づけについて深く考えてみる(2時間)
5.	こころのしくみの基礎、諸理論・思考・学習・記憶のしくみ テキストを中心に学習や記憶の種類について学ぶ	関連するテキストを読み記憶について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め学習・記憶について深く考えてみる(2時間)
6.	人体の構造と生理の理解(脳) テキストや参考図書をもとに脳の解剖生理について学ぶ	関連する図書を読み脳・解剖図について学んでおく(2時間)	"脳に関連する名称や働きを覚える(2時間)"
7.	人体の構造と生理の理解(呼吸器・循環器系) 人体モデルや自身の身体等を利用して呼吸器・循環器の解剖生理について学ぶ	関連する図書を読み呼吸・循環系・解剖図について学んでおく(2時間)	呼吸器・循環器に関連する名称や働きを覚える　(2時間)
8.	人体の構造と生理の理解(消化器系) 人体モデルや自身の身体等を利用して消化器の解剖生理について学ぶ	関連する図書を読み消化系・解剖図について学んでおく(2時間)	消化器系に関連する名称や働きを覚える　(2時間)
9.	人体の構造と生理の理解(泌尿器・生殖器系) 人体モデルや自身の身体等を利用して泌尿器・生殖器の解剖生理について学ぶ	関連する図書を読み泌尿器・解剖図について学んでおく(2時間)	泌尿器・生殖器に関連する名称や働きを覚える　(2時間)
10.	人体の構造と生理の理解(筋・骨角系) 骨格モデル人形や自身の身体を利用して筋・骨格系の解剖生理を学ぶ。	関連する図書を読み骨筋系・解剖図について学んでおく(2時間)	筋・骨格系に関連する名称や働きを覚える　(2時間)
11.	人の動きの基本である日常生活動作（ADL）と手段的日常生活動作（IADL）について事例とともに学ぶ	自分自身のADL・IADLについて深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含めADLについて深く考えてみる(2時間)
12.	身じたくに関連したこころとからだのしくみ ひとは身じたくをすることで心にどんな変化が起こるか、また、身じたくに必要な身体構造について学ぶ	自分自身の身じたくについて深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め身じたくについて深く考えてみる(2時間)
13.	移動に関連したこころとからだのしくみ① ひとは移動をすることで心にどんな変化が起こるか、また、移動に必要な身体構造について学ぶ	自分自身の移動手段について深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め移動について深く考えてみる(2時間)
14.	移動に関連したこころとからだのしくみ② 移動に関する事例をもとに、支援が必要になったときの援助法について学ぶ	関連する図書を読み移動について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め移動手段について深く考えてみる(2時間)
15.	授業前半のまとめと後半への導入	前半授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく(2時間)	前半授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく(2時間)

教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「こころとからだのしくみ」　(中央法規)
参考書	「医学一般」(建帛社) その他にも授業中に適宜紹介します。
学習成果の評価方法	定期試験（70%)、小テスト（20%)、レポート（10%)、で総合的に評価します。レポート・小テストは添削や採点後に返却します。
特記すべき事　　項	授業時間に行う小テストは8割以上取れるまでは数回の再テストを受けてください。それにより定期試験に加算をします。 受けない場合は減点対象となる場合があります。"
質問･相談等の受付	"質問がある場合は授業後に直接聞きに来てください。内容により即答、次回持越し、研究室対応とします。 研究室対応は金曜日16：30～17：00の間で行います。

科　目	こころとからだのしくみ（後期）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師　折居　明日香	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	この科目では、介護技術の根拠となる人体の構造や機能、および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。 人間の欲求、尊厳の理解をする上で大切な生理学、運動学、精神心理学等をもとの加齢や様々な疾患でどのような生活障害が生じるかを学び、ADL、IADLなど人の行動に関連したこころとからだのしくみについての理解を深める。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	人間の欲求、尊厳の基本的理解ができる。	DP1	定期試験で6割以上、授業中に行う小テストで8割以上をとること(小テストは随時再試験も行う)
2.	こころとからだは相互に影響しあい意欲や行動などに影響を及ぼすことを理解できる。	DP1	定期試験で6割以上、授業中に行う小テストで8割以上をとること(小テストは随時再試験も行う)
3.	人の行動と人体の解剖生理、疾病等介護福祉士として必要な専門知識を理解できるようになる。	DP1	授業中に行う小テストで8割以上をとること 解剖図を描き、人体はそれぞれに関連し合っていることをレポートを通して理解すること。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学修成果について（評価方法、評価基準） 食べることに関連したこころとからだのしくみ①	関連する書物を読み人間と食について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め食事について深く考えてみる(2時間)
2.	食べることに関連したこころとからだのしくみ②	関連する書物を読み栄養学について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め栄養学について深く考えてみる(2時間)
3.	口腔の清潔に関連したこころとからだのしくみ(DVD使用)	テキストを読み口腔ケアについて学んでおく(2時間)	様々な人への口腔ケアの方法を覚える(2時間)
4.	排泄に関連したこころとからだのしくみ	関連するテキストを読み人間と排泄について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め排泄について深く考えてみる(2時間)
5.	排泄の清潔に関連したこころとからだのしくみ	関連するテキストを読み排泄について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め排泄について深く考えてみる(2時間)
6.	排泄に関連したこころとからだのしくみ(DVD使用)	テキストを読み排泄援助方法ついて学んでおく(2時間)	様々な人への排泄介助方法を覚える(2時間)
7.	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①	関連する図書を読み人間と入浴・清潔について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め清潔について深く考えてみる(2時間)
8.	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②	テキストを読み入浴について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め入浴について深く考えてみる(2時間)
9.	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ③(DVD使用)	テキストを読み清潔援助方法について学んでおく(2時間)	様々な人への入浴介助方法を覚える(2時間)
10.	睡眠に関連したこころとからだのしくみ①	関連する図書を読み人間と睡眠について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め人間と睡眠について深く考えてみる(2時間)
11.	睡眠に関連したこころとからだのしくみ②	テキストを読み睡眠について深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め良質な睡眠方法について考える(2時間)
12.	死にゆく人のこころとからだのしくみ①	自分の死生観や身近な人との別れについて深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め人の死について深く考えてみる(2時間)
13.	死にゆく人のこころとからだのしくみ②	人が終末期から死を迎えることの意味について深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め看取りから家族ケアまでを知る(2時間)
14.	本授業のまとめと他科目との関連性のまとめ①	全授業を振り返り他科目との関連性に気付く　(2時間)	全授業を振り返り他科目との関連性に気付く　(2時間)
15.	本授業のまとめと他科目との関連性のまとめ①	後半授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく(2時間)	後半授業を振り返り定期試験に備える(2時間)

教科書	最新　介護福祉士養成講座　14「こころとからだのしくみ」中央法規
参考書	適宜配布
学習成果の評価方法	定期試験（70%）、小テスト（20%）、レポート（10%）、で総合的に評価する。レポートは添削後に返却する。
特記すべき事　　項	遅刻した場合は、授業終了後に担当者へ申し出ること。申し出がない場合は欠席となります。早退、欠席も必ず本人が担当者へ直接、理由等を申し出ること。
質問・相談等の受付	質問、相談があるときは、授業終了後の教室または授業前後に非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	医療的ケア	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	講義+演習 4単位
授業概要	医療職との連携のもとで、　医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得します。医療的ケア実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解します。テキストを基本に健康状態の把握、高齢者及び障がい児・者への喀痰吸引・経管栄養の概論を理解し、清潔保持、感染防止法とともに修得します。基本の講義の後に口腔、鼻腔、および気管カニューレ内の喀痰吸引操作ができるようになります。その後胃瘻または腸瘻、経鼻による経管栄養の操作ができるようになります。＊この授業は看護師として７年以上の臨床経験を持つ教員が医療的ケアについて体験事例を交えながら教授します。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	医療的ケア実施の基礎として安全性、感染予防、健康状態把握のための知識を修得することができる。	DP1	定期試験および授業中の質問で、医療的ケアの基礎知識の理解が6割以上解答できること
2.	喀痰吸引、経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解すし、利用者のニーズに応えることができるようになる。	DP1	各項目の実施手順習熟度テストを行い8割以上の出来が認められなければ演習は受けられないものとする。
3.	喀痰吸引、経管栄養の演習を実施する。その知識・技能をいかし多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようになる。	DP1	喀痰吸引、経管栄養の基礎演習項目が全て１人でできるようになる。基礎演習は5回行う

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（授業内容と学習成果、評価について） 人間と社会の理解、個人の尊厳、医療の倫理について学ぶ	倫理観についてどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や医療の倫理について復習する(2時間)
2.	保健医療制度とチーム医療 医療的ケアと医療チームとの連携について学ぶ	医療チームに入る他職種にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容やチーム医療職種ついて復習する(2時間)
3.	安全な療養生活のための清潔保持と感染予防 感染に関する事例をもとに、清潔・感染防止のために必要な演習を行う	清潔、消毒、感染等について調べる　(2時間)	講義で学んだ内容や消毒と滅菌ついて復習する(2時間)
4.	健康状態の把握、バイタルサインと急変状態について バイタルサイン測定の方法について学ぶとともに、友人同士で実測演習を行う	他科目で習得しているバイタルサインについて復習をして臨む(2時間)	講義で学んだ内容やバイタルサイン測定が実践できる(2時間)
5.	呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態 呼吸器に関する解剖生理を学び、異常呼吸等について学ぶ	他科目で習得している呼吸のしくみについて復習をして臨む(2時間)	講義で学んだ内容や呼吸状態について復習する(2時間)
6.	喀痰吸引　　人工呼吸器と吸引 DVD映像をもとに人工呼吸器について学ぶ 喀痰吸引の必要性について学ぶ	人工呼吸にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や人工呼吸ついて復習する(2時間)
7.	子どもの吸引、利用者や家族への対応、説明と同意 DVD、テキストを中心に子どもの喀痰吸引について学ぶ	子どもの身体的発達と家族の思いについて調べる(2時間)	講義で学んだ内容や説明と同意の現状について復習する(2時間)
8.	呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して) 呼吸器系疾患や喀痰吸引との関係について学ぶ	感染にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や感染防止の決まりについて復習する(2時間)
9.	喀痰吸引と安全確認、急変・事故発生時の対応 安全や急変事故について事例をもとに学ぶとともに医療職との連携方法についても学ぶ	安全確認や危機管理について調べる　(2時間)	講義で学んだ内容やヒヤリハットについて復習する(2時間)
10.	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施について 喀痰吸引を必要とする高齢者や障害児・者の特徴について学ぶ	高齢者や障がい者の身体的特徴について調べる(2時間)	講義で学んだ内容や高齢者や障がい者の特徴について復習する(2時間)
11.	吸引器具・機材のしくみ、清潔操作、報告と記録 喀痰吸引で使用する器具に触れて名称等を覚える	テキストを読み機材の名称等を知っておく(2時間)	講義で学んだ内容や器具機材の名称を覚える(2時間)
12.	喀痰吸引のケア実施の手引き DVD、テキストを中心に喀痰吸引の細部にわたる注意事項の説	テキストを読み喀痰吸引の内容を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や吸引手順を覚える(2時間)
13.	口腔内、鼻腔内吸引の通常手順 DVD、テキストを中心に喀痰吸引の手順を学ぶ	テキストを読み喀痰吸引の内容と手順を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や口腔鼻腔吸引の手順を覚える(2時間)
14.	気管カニューレ内部 気管カニューレ装着者にはどのような人がいるかを考え、カニューレ内吸引の原則について学ぶ	テキストを読み喀痰吸引の内容と気管カニューレについて調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や気管カニューレ内部の吸引手順を覚える(2時間)
15.	人工呼吸器装着者の吸引手順 非侵襲的人工呼吸（酸素マスク）を中心に手順や注意項目について学ぶ	テキストを読み人工呼吸器について調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や人工呼吸器装着の人の吸引手順を覚える(2時間)

教科書	全国訪問看護事業協会編集「介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」中央法規
参考書	和田忠志「介護の現場で役立つ医療的ケアハンドブック」自由国民社　他 その他授業中に適宜紹介します
学習成果の評価方法	定期試験(70%)、習熟度テスト(20%)、演習に取り組む姿勢(10%)等で総合的に評価します。 喀痰吸引「基本研修・演習」経管栄養「基本研修・演習」項目を一人で5回以上できるようにならないと合格できません。
特記すべき事　項	習熟度テストに合格しなければ最後の「基本研修・演習」は受けられないものとします。基本演習は法に則り行います。
質問・相談等の受付	質問、相談などがあるときは授業終了後 直接質問に来てください。内容により即答、次回持越し、または研究室対応とします。研究室対応は金曜日16：30～17：30に行います。

科　目	医療的ケア	開講時期 履修方法	１年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	講義+演習 4単位
授業概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得します。医療的ケア実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解します。テキストを基本に健康状態の把握、高齢者及び障がい児・者への喀痰吸引・経管栄養の概論を理解し、清潔保持、感染防止法とともに修得します。基本の講義の後に口腔、鼻腔、および気管カニューレ内の喀痰吸引操作ができるようになります。その後胃瘻または腸瘻、経鼻による経管栄養の操作ができるようになります。 ＊この授業は看護師として７年以上の臨床経験を持つ教員が医療的ケアについて体験事例を交えながら教授する		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	医療的ケア実施の基礎として安全性、感染予防、健康状態把握のための知識を修得することができる。	DP1	定期試験および授業中の質問で、医療的ケアの基礎知識の理解が6割以上解答できること
2.	喀痰吸引、経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解すし、利用者のニーズに応えることができるようになる。	DP1	各項目の実施手順習熟度テストを行い8割以上の出来が認められなければ演習は受けられないものとする。
3.	喀痰吸引、経管栄養の演習を実施する。その知識・技能をいかし多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようになる。	DP1	喀痰吸引、経管栄養の基礎演習項目が全て１人でできるようになる。基礎演習は5回行う

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	消化器系のしくみとはたらき 消化器に関する解剖生理を学び、消化器症状等について学ぶ	他科目で習得している消化器系しくみについて復習をして臨む(2時間)	講義で学んだ内容や消化器系のしくみについて復習する(2時間)
17.	消化・吸収とよくある消化器の症状 テキストや参考図書を参考に消化器症状の正常と異常について学ぶ	他科目で習得している消化器系しくみについて復習をして臨む(2時間)	講義で学んだ内容や消化器症状ついて復習する(2時間)
18.	経管栄養とは テキストや参考図書を中心に経管栄養について学び、なぜ必要なのかについて考える	テキストを読み経管栄養について調べる　(2時間)	講義で学んだ内容や経管栄養ついて復習する(2時間)
19.	注入する内容に関する知識 経管栄養の目的を学んだうえで注入する栄養について学ぶ	経管栄養で使用する栄養剤について調べる(2時間)	講義で学んだ内容や注入する内容が理解できる(2時間)
20.	経管栄養実施上の留意点 DVD、テキストを中心に経管栄養実施上の留意点について事例を参考に学ぶ	テキストを読み経管栄養実施について調べる　(2時間)	講義で学んだ内容や実施留意点について復習する(2時間)
21.	経管栄養に関係する感染と予防 感染に関する事例をもとに、清潔・感染防止のために必要な演習を行う	感染にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や感染ついて復習する(2時間)
22.	経管栄養を受ける利用者や家族への対応、説明と同意 利用者や家族になったつもりで心情や対応についてグループワークディスカッションを行う	経管栄養を受ける利用者と家族の思いについて調べる(2時間)	講義で学んだ内容や説明と同意の現状について復習する(2時間)
23.	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 消化器の解剖生理をもとに、関連する異常症状や安全確認について学ぶ	経管栄養によるヒヤリハットについて調べる(2時間)	講義で学んだ内容や安全確認について復習する(2時間)
24.	急変・事故発生時の対応と事前対策 DVDやテキストを中心に危機管理やヒヤリハットについて学ぶ	安全確認や危機管理について調べる　(2時間)	講義で学んだ内容やヒヤリハットについて復習する(2時間)
25.	経管栄養での器具・機材のしくみと清潔の保持 経管栄養で使用する器具に触れて名称等を覚える	テキストを読み機材の名称等を知っておく(2時間)	講義で学んだ内容や機材の名称を覚える(2時間)
26.	経管栄養のケア実施の手引き テキストを中心に基本研修の手順を学ぶ	テキストを読み経管栄養の内容を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容やケア実施の手順を覚える(2時間)
27.	報告及び記録の書き方 医療職との連携について学び、わかりやすい報告の仕方、記録の書き方を学ぶ	テキストを読み報告や記録の内容を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や報告記録の仕方を覚える(2時間)
28.	胃瘻・腸瘻、または経鼻による経管栄養 DVD、テキストを中心に経管栄養の手順を学ぶ	テキストを読み経管栄養の内容と手順を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や経管栄養の手順を覚える(2時間)
29.	まとめと集中講義 今までに行った習熟度テストを見直し基本演習に備える	前回までの内容を振り返り質問等があればあげておく(2時間)	講義で学んだ内容をまとめすべての手順を覚える(2時間)
30.	喀痰吸引、経管栄養の実技演習	テキストを読み実技演習に臨む(2時間)	全体を把握し期末試験に臨む(2時間)

教科書	全国訪問看護事業協会編集「介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」中央法規
参考書	和田忠志「介護の現場で役立つ医療的ケアハンドブック」自由国民社　他 その他授業中に適宜紹介します
学習成果の評価方法	定期試験(70%)、習熟度テスト(20%)、演習に取り組む姿勢(10%)等で総合的に評価します。 喀痰吸引「基本研修・演習」経管栄養「基本研修・演習」項目を一人で5回以上できるようにならないと合格できません。
特記すべき事　項	習熟度テストに合格しなければ最後の「基本研修・演習」は受けられないものとします。基本演習は法に則り行います。
質問・相談等の受付	質問、相談などがあるときは授業終了後 直接質問に来てください。内容により即答、次回持越し、または研究室対応とします。研究室対応はオフィス時間にいつでも対応します

科　目	キャリア形成ゼミⅢ（前期）	開講時期 履修方法	１年前期 必修、科目
担当者	教授　角　眞由美・教授　大川　絹代	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	社会人基礎力を学び、社会人として必要とする職業能力を身に付ける。地域貢献として地域住人とレクリエーション活動を通して交流を図る。社会人・介護福祉職・保育職として興味関心のあるテーマについて、調査研究を行いその内容と自身の考察をまとめレポート作成・パワーポイントを活用し発表しバズセッションを行う。キャリア形成ゼミⅢは、学生主体で実践する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	社会人基礎力を学び、学生生活や社会人として活用できるようになる。	DP４	コミュニケーション能力、チーム力、リーダーシップ力、表現方法、文章作法を身につける。プレゼンテーション能力を高める。
2.	対象者の尊厳を守り、思いやりと感謝の気持ちで状況に応じた対応能力を身に付ける。	DP３	環境に応じた言葉遣いや挨拶など、社会人としてのマナーの知識があり実践できる。対象者に対して尊厳や思いやりのある配慮ができる。
3.	介護福祉士国家試験や就職に向けて意欲的になる。	DP２	介護福祉士国家試験合格を目指し、実施する模擬試験や対策講座だけでなく自主学習に努める。なりたい職業へのプロセスをまとめる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション　「学習成果、評価方法、評価基準、キャリア形成ゼミⅢ・キャリア形成プログラムの意義」	シラバスに目を通す（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
2.	建学の精神を考える 「1年後の自分を見つめる　職業観、就労観」	建学の精神を理解する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
3.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー１ 「文章作法、レポート・論文の書き方」等	発表のテーマについて予習する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
4.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー2 「プレゼンテーション能力」等	発表のテーマについて予習する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
5.	地域活動　せいかよかよか倶楽部　地域高齢者施設	チームでのレクリエーション内容を想定する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
6.	地域活動　せいかよかよか倶楽部　地域高齢者施設	チームでのレクリエーション内容を想定する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
7.	高齢者体験、福祉用具・住宅改修見学　福岡市介護実習普及センター	福岡市介護実習普及センターについて調べる（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
8.	介護実習直前指導	介護実習施設について調べる（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
9.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー3 「自己管理能力」等	発表のテーマについて予習する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
10.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー4 「日常生活での礼儀作法　コミュニケーション能力」等	発表のテーマについて予習する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
11.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー5 「介護実習施設での言葉遣い」等	発表のテーマについて予習する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
12.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー6 「チームワーク力」等	発表のテーマについて予習する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
13.	仏教法話 キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー7 「リーダーシップ力」等	発表のテーマについて予習する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
14.	地域活動　せいかよかよか倶楽部　地域高齢者施設	チームでのレクリエーション内容を想定する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
15.	修了生からのメッセージ 就職活動説明	就職活動について考える（30分）	今回学んだ内容について感想を書く（30分）

教科書	なし
参考書	社会人基礎力の関連書籍については、図書館の書籍を活用
学習成果の評価方法	発表内容のレポート作成・パワーポイント作成及び発表方法（80%）、授業への積極的態度とチームの連携(20%) レポート、パワーポイントは添削後返却する。
特記すべき事　項	レポートテーマに関連した書籍を３冊以上参考文献とする。チームとしてレポートやパワーポイント作成に関わる。 遅刻、早退、欠席は本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木・金曜日１６：６０～１７：３０）にお出でください

科　目	キャリア形成ゼミⅢ（後期）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、科目
担当者	教授　角　眞由美・教授　大川　絹代	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	社会人基礎力を学び、社会人として必要とする職業能力を身に付ける。地域貢献として地域住人とレクリエーション活動を通して交流を図る。社会人・介護福祉職・保育職として興味関心のあるテーマについて、調査研究を行いその内容と自身の考察をまとめレポート作成・パワーポイントを活用し発表しバズセッションを行う。キャリア形成ゼミⅢは、学生主体で実践する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	社会人基礎力を学び、学生生活や社会人として活用できるようになる。	DP4	コミュニケーション能力、チーム力、リーダーシップ力、表現方法、文章作法を身につける。プレゼンテーション能力を高める。
2.	対象者の尊厳を守り、思いやりと感謝の気持ちで状況に応じた対応能力を身に付ける。	DP3	環境に応じた言葉遣いや挨拶など、社会人としてのマナーの知識があり実践できる。対象者に対して尊厳や思いやりのある配慮ができる。
3.	介護福祉士国家試験や就職に向けて意欲的になる。	DP2	介護福祉士国家試験合格を目指し、実施する模擬試験や対策講座だけでなく自主学習に努める。なりたい職業へのプロセスをまとめる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	ホームルーム 介護実習Ⅱ　事後指導「介護過程の実践と介護施設実習について」	シラバスに目を通しておく　（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
2.	文章表現ー１　「介護過程としての介護計画立案と実践」	介護実習Ⅱでの必要な資料を確認する（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
3.	文章表現ー２　「介護過程としての介護計画実践と評価考察」	介護実習Ⅱでの必要な資料を確認する（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
4.	地域活動　「せいかよかよか倶楽部　地域施設」	より良い交流ができるよう計画する（３０分）	学んだ内容について復習する（30分）
5.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー１ 「問題解決能力」等	発表のテーマについて予習する（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
6.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー２ 「論理的思考」等	発表のテーマについて予習する（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
7.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー３ 「自己管理に能力」等	発表のテーマについて予習する（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
8.	キャリア形成プログラム（PCF）　社会人基礎力ー４ 人権尊重教育後援会	発表のテーマについて予習する（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
9.	介護職実践セミナーリハーサル	セミナーでの役割を見直す（30分）	セミナーでの自身の役割を再度検討する（30分）
10.	介護職実践セミナー	セミナーでの役割を見直す（30分）	セミナーでの役割を振り返る（30分）
11.	学生環境調査 国家試験対策　模擬試験　第１回	不得意科目を見直す（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
12.	仏教法話 国家試験対策　模擬試験　第２回	不得意科目を見直す（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
13.	国家試験対策　模擬試験　第３回	不得意科目を見直す（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
14.	国家試験対策　模擬試験　第４回	不得意科目を見直す（30分）	学んだ内容について復習する（30分）
15.	国家試験対策　模擬試験　第５回	不得意科目を見直す（30分）	学んだ内容について復習する（30分）

教科書	介護福祉士国家試験参考書
参考書	社会人基礎力の関連書籍については、図書館の書籍を活用
学習成果の評価方法	発表内容のレポート作成・パワーポイント作成及び発表方法（80%）　授業への積極的態度とチームの連携(20%) レポート、パワーポイントは添削後返却する。
特記すべき事　項	レポートテーマに関連した書籍を３冊以上参考文献とする。チームとしてレポートやPP作成に関わる。模擬試験は必ず５回は受けること。 遅刻、早退、欠席は本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木・金曜日１６：６０～１７：３０）にお出でください。

科　目	保育原論	開講時期 履修方法	１年後期 必修、科目
担当者	教授　朝木　徹	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	保育者に求められる専門的力量は多岐にわたるが、特に対人援助職に必要となるスキルについて、保育者養成課程で学んだ専門的知識・技術を踏まえ、子どもの生活と遊びを通して子どもの育ちを見抜く力を豊かにする。また、社会的役割としての保護者支援・子育て支援を行うことができる力を培う。更に、保育と介護福祉の接続の重要性を理解する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育者養成課程で学んだ幼児教育に関する諸理論の理解を深めることができる。	DP2,4	試験において、幼児教育に関する諸理論の内容に関して6割以上解答できる（テスト）。
2.	現代における保育実践上の課題を明確にし、それを解決するための指導力を身につけることができる。	DP3	グループ学習の検討を通して、保育に関する諸課題を明確にし、協働してその解決のためのレポートを作成し、発表することができる。
3.	乳幼児の保育と介護福祉の接続を踏まえ、実践を展開できる力を形成することができる。	DP2,3	保育と介護を踏まえての教材研究を実施し、教材製作や遊びの発表ができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション／学習成果について （評価方法及び評価基準）	保育・福祉に関する内容をニュースや新聞、書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
2.	子ども理解① 発達の道筋を踏まえた発達課題の理解	乳幼児の発達過程に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
3.	子ども理解② 保育実践の方法の理解と保育実践上の課題	保育実践の方法に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
4.	育ち合う保育の実際① 乳幼児の遊びと生活へのかかわり 【グループ学習・遊び等の発表：4回目～14回目】	乳幼児の遊びと生活に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
5.	育ち合う保育の実際② 子ども同士のかかわりと育ち、子どもとの関わり	子ども同士の関わりと育ちに関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
6.	保育の課題（対人援助者として）① 子どもの要求と保育者の要求の関わり、子ども同士の関わり	子どもの要求と保育者の要求に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
7.	保育の課題（対人援助者として）② 気になる子どもの保育	気になる子どもの保育に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
8.	保育の課題（対人援助者として）③ 保育者集団のあり方、役割分担、協働等	保育者集団、役割分担、協働に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
9.	保護者支援について 保護者支援の方法と実際：事例に学ぶ	保護者支援の方法と実際に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
10.	子育て支援について 子育て環境の実態と子育て支援の必要性	子育て環境の実態と子育て支援に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
11.	保育サービスの評価 情報開示、苦情解決	保育サービスの評価に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
12.	介護福祉と保育の接続 介護福祉と保育の接続の方法と実際：事例に学ぶ	介護福祉と保育の接続に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
13.	これからの保育を学ぶ① 子どもや保護者を取り巻く生活・保育の現状を理解する	子どもや保護者を取り巻く生活・保育の現状に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
14.	これからの保育を学ぶ② 子育て支援、介護と保育の接続の現状 【グループ学習・遊び等の発表：4回目～14回目】	子育て支援に関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）
15.	子どもと保育者の育ち まとめとテスト	子どもと保育者の育ちに関する内容を書籍等から情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと （2時間）

教科書	なし
参考書	授業中に適宜紹介する
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（授業態度、グループ学習への取組）（10%）、課題レポート・遊びの発表提出（40%）、定期試験（50%） 課題レポートについては、評価・フィードバックした上で返却します。
特記すべき事　項	出席確認は、授業開始時の応答により行います。遅刻や早退等はその日の講義時間内に申し出て下さい。
質問・相談等の受付	講義に関する質問は、授業の前後か朝木先生の研究室に掲示しているオフィスアワーの時間帯に随時受け付けます。